

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成30年10月25日
【事業年度】	第35期（自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日）
【会社名】	ティーライフ株式会社
【英訳名】	T e a L i f e C o . , L t d .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 植田 伸司
【本店の所在の場所】	静岡県島田市牛尾118番地
【電話番号】	0547-46-3459（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役 鈴木 守
【最寄りの連絡場所】	静岡県島田市牛尾118番地
【電話番号】	0547-46-3459（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役 鈴木 守
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
決算年月	平成26年7月	平成27年7月	平成28年7月	平成29年7月	平成30年7月
売上高 (千円)	6,012,440	6,814,167	7,200,933	7,320,812	7,289,410
経常利益 (千円)	385,483	363,394	446,631	546,705	470,220
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	224,738	185,093	336,565	458,607	423,136
包括利益 (千円)	218,324	176,863	312,423	467,571	427,454
純資産額 (千円)	3,642,541	3,713,155	3,910,830	4,187,087	4,470,045
総資産額 (千円)	4,481,120	5,245,262	5,397,400	5,430,634	6,038,361
1株当たり純資産額 (円)	857.08	873.69	920.20	985.21	1,051.79
1株当たり当期純利益金額 (円)	52.88	43.55	79.19	107.90	99.56
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	81.3	70.8	72.5	77.1	74.0
自己資本利益率 (%)	6.3	5.0	8.8	11.3	9.8
株価収益率 (倍)	15.80	23.12	11.59	14.87	13.11
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	336,217	252,177	410,301	518,278	429,039
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	91,839	1,029,931	321,318	1,368	563,184
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	226,627	211,297	206,411	299,644	219,507
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	1,560,324	994,584	1,518,988	1,733,867	1,818,916
従業員数 (人)	121	141	138	150	149
(外、平均臨時雇用者数)	(16)	(20)	(20)	(22)	(30)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3. 従業員数は、就業員数であります。なお、臨時雇用者数(パートタイマーを含み、人材会社からの派遣社員を除いております。)の年間の平均人員(1日平均8時間換算)を()外数で記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
決算年月	平成26年 7月	平成27年 7月	平成28年 7月	平成29年 7月	平成30年 7月
売上高 (千円)	4,660,357	4,728,295	5,172,327	5,455,071	5,328,978
経常利益 (千円)	407,775	429,156	552,003	485,924	513,327
当期純利益 (千円)	264,633	297,935	341,872	393,646	400,138
資本金 (千円)	356,625	356,625	356,625	356,625	356,625
発行済株式総数 (千株)	4,250	4,250	4,250	4,250	4,250
純資産額 (千円)	3,673,614	3,853,363	4,062,933	4,269,505	4,526,574
総資産額 (千円)	4,409,201	5,163,475	5,293,717	5,303,060	5,890,034
1株当たり純資産額 (円)	864.39	906.68	955.99	1,004.61	1,065.10
1株当たり配当額 (円)	25.00	27.00	28.00	34.00	34.00
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(17.00)	(17.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	62.26	70.10	80.44	92.62	94.15
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	83.3	74.6	76.8	80.5	76.9
自己資本利益率 (%)	7.4	7.9	8.6	9.4	9.1
株価収益率 (倍)	13.42	14.36	11.41	17.32	13.87
配当性向 (%)	40.2	38.5	34.8	36.7	36.1
従業員数 (人)	90	91	94	101	108
(外、平均臨時雇用者数)	(13)	(14)	(13)	(14)	(21)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第34期の1株当たり配当額には、東証一部上場記念配当4円を含んでおります。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 従業員数は、就業員数(当社から社外への出向者を除いております。)であります。なお、臨時雇用者数(パートタイマーを含み、人材会社からの派遣社員を除いております。)の年間の平均人員(1日平均8時間換算)を()外数で記載しております。

2【沿革】

年月	事項
昭和58年 8月	緑茶のティーバッグ加工と通信販売を目的として静岡県榛原郡金谷町（現 島田市）金谷河原132番地の14にティーライフ株式会社を設立（資本金200万円）
昭和60年 3月	ティーバッグ加工の拡大のため、静岡県榛原郡金谷町（現 島田市）横岡578番地の1に加工工場を設置し、本社を移転
昭和62年12月	通信販売部門を分離し、静岡県榛原郡金谷町（現 島田市）牛尾118番地に株式会社植田茶園（植田伸司75%、ティーライフ株式会社25%出資）を設立（資本金300万円）
平成 2年 2月	株式会社植田茶園を株式会社ウエダに商号変更
平成 2年 8月	三角型ティーバッグ包装機を導入し、ティーバッグ受託加工を専門化
平成 4年 8月	株式会社ウエダを解散し、ティーライフ株式会社へ事業統一
平成 7年 3月	カタログ「四季彩々」を創刊
平成10年 3月	「ダイエットプーアール茶」販売開始
平成12年 4月	ISO14001を認証取得
平成13年 8月	業務拡大に伴い、事務所、出荷センター、倉庫を静岡県榛原郡金谷町（現 島田市）牛尾118番地に設置、本社を移転
平成14年 5月	ティーバッグ商品に「トウモロコシフィルター」を使用開始 ティーバッグ受託加工業を廃止
平成15年 1月	インターネットでの通信販売を開始
平成15年 6月	化粧品「炭の露シリーズ」販売開始
平成15年 9月	JADMA（社団法人日本通信販売協会）入会
平成16年 2月	ティーライフ楽天ショップ出店
平成16年11月	カタログ「Bamboo Cafe」創刊
平成19年 4月	プライバシーマーク認証取得
平成19年 6月	カタログ「四季彩々」をリニューアルし、カタログ「Salala今から」創刊
平成20年 1月	カタログ「おちゃべり」創刊
平成20年 5月	「メタポメ茶」販売開始
平成21年 5月	カタログ「Salala今から」、カタログ「おちゃべり」を統合・リニューアルし、カタログ「さらら」創刊
平成22年 9月	カタログ「Bamboo Cafe」を「炭の露」に名称変更
平成24年 3月	大阪証券取引所JASDAQ市場（スタンダード）に株式を上場
平成24年11月	株式会社アベックス（群馬県高崎市）の全株式を取得し子会社化
平成25年 7月	大阪証券取引所と東京証券取引所の市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ市場（スタンダード）に株式を上場
平成25年11月	コラムジャパン株式会社（東京都千代田区）の全株式を取得し子会社化
平成26年 7月	東京証券取引所市場第二部に市場変更
平成26年 8月	株式会社ダイカイ（愛知県名古屋市）の全株式を取得し子会社化
平成27年 8月	ティーライフ株式会社物流センター（静岡県袋井市）稼働
平成27年 9月	カタログ「炭の露」を「優肌ライフ」に名称変更
平成28年10月	東京証券取引所市場第一部に指定
平成29年 3月	提來福股份有限公司（台湾台北市）を設立
平成29年 8月	コラムジャパン株式会社を吸収合併し、法人事業部を新設
平成30年 1月	カタログ「優肌ライフ」を「ていあびより」に名称変更
平成30年 2月	化粧品「teatea（ティアティア）」販売開始
平成30年 5月	薬店「ティーライフのくすり屋 本店」を開業、第3類医薬品「ティアホワイト」販売開始

（注）当社は、平成30年 8月 1日付にて、株式会社Lifeitの全株式を取得し、子会社化いたしました。

3【事業の内容】

当社グループは、当社と連結子会社（株式会社アベックス・株式会社ダイカイ・提來福股份有限公司）の4社で構成されており、主軸となる通信販売による小売事業のほか、通信販売会社・小売店等への卸売事業、物流センターの一部を利用した不動産賃貸事業を展開しております。また、小売・卸売事業間において、一部、取扱商品や販売チャネルを共有しております。

なお、次の3つの事業区分は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

「小売事業」

（当社）

当社は、株式保有により連結子会社を統括するとともに、主に自社企画した健康茶、健康食品、化粧品をカタログ、インターネット等を通じ、個人消費者に通信販売を行う小売事業を営んでおります。「いつまでも健康・いつまでもキレイ」をコンセプトに、健康食品を中心とした商品を取扱う『さらら』、竹酢液・お茶類等の天然素材を配合した化粧品を中心に取扱う『ていあびより』の2種類のカタログを制作・配布しているほか、ショッピングサイトによる通信販売を行っております。また、当社は、製造業で培った製造加工のノウハウを活かし、原料調達や製造工程を含めた商品企画が可能であり、独自性が高い商品の企画力を強みとしております。

（提來福股份有限公司）

提來福股份有限公司は、当社商品「メタボメ茶」を台湾にて「美達寶美茶」という商品名で通信販売する小売事業を営んでおります。「お茶を通じて、あなた様の生活を豊かにする」というテーマを掲げ、テレビ広告、Web広告、ポップアップストアを中心に個人消費者にアプローチを行っております。

「卸売事業」

（当社）

当社は、平成29年8月1日付で連結子会社コラムジャパン株式会社を吸収合併いたしました。同社の事業を継承し、当社の法人事業部にて、欧米のキッチン、バス、サニタリー等の日用雑貨を輸入し卸売事業を展開しております。当事業では、スチームケースで知名度の高い「ルクエ」ブランドを国内に浸透させた実績があり、海外商品を日本市場向けにアレンジした企画提案を得意とするほか、国内に豊富な販路を確立しております。

（株式会社アベックス）

株式会社アベックスは、生活雑貨や食品等を国内外のメーカーから仕入れ、主にテレビショッピングやカタログ販売などを展開する通信販売会社に販売する卸売事業を営んでおります。「オンリーワン」をコンセプトに、ワンランク上の商品構成を特徴とするほか、テレビショッピングを展開する通信販売会社に対しては、商品から販売方法までのプロデュースを実施し、カタログ通信販売会社には、客層や掲載時期にあわせた商品の提案を行うといった企画力が強みとなっております。

（株式会社ダイカイ）

株式会社ダイカイは、独自のキャラクター雑貨や天然素材の生活雑貨等の企画、輸入、販売を行う卸売事業を営んでおります。昭和46年の創業以来、中国から継続的に仕入を行ってきた実績があり、中国の商習慣を熟知しているとともに、現地仕入先とは強い信頼関係が構築されているほか、国内には小売店を中心に多くの販売先を有しております。

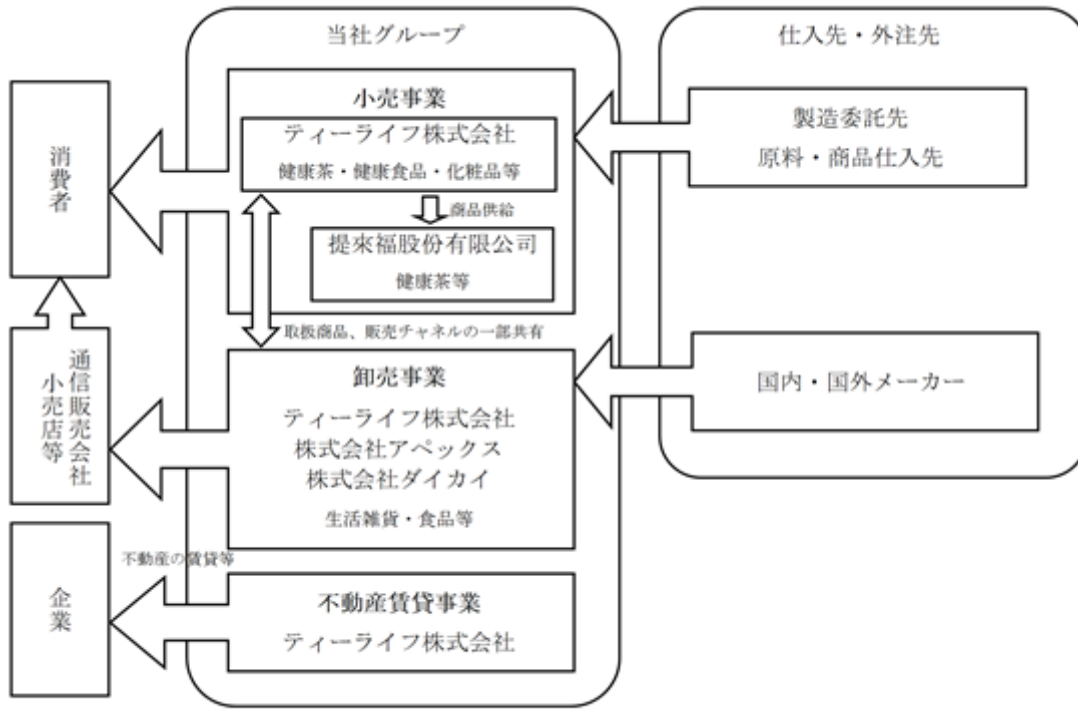
「不動産賃貸事業」

（当社）

当社は、当社が所有する不動産を活用した不動産賃貸事業を展開しております。

[事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



(注) ← : 製品・商品・原料等の動きを示しております。

(注) 上記の事業系統図は当連結会計年度末現在における事業系統の状況を記載しております。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社アベックス	群馬県高崎市	40	卸売事業	100	役員の兼任2名 資金の援助
(連結子会社) 株式会社ダイカイ	名古屋市港区	10	卸売事業	100	役員の兼任3名 資金の援助
(連結子会社) 提來福股份有限公司	台湾台北市	5 百万台湾元	小売事業	100	役員の兼任4名 資金の援助

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 株式会社アベックスは、特定子会社に該当しております。

3. 株式会社アベックスは、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	1,379百万円
	(2) 経常利益	36百万円
	(3) 当期純利益	24百万円
	(4) 純資産額	346百万円
	(5) 総資産額	492百万円

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年7月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
小売事業	106(21)
卸売事業	43(9)
不動産賃貸事業	-(-)
合計	149(30)

(注) 従業員数は就業員数であり、臨時雇用者数(パートタイマーを含み、人材会社からの派遣社員を除いております。)は、年間の平均人員(1日平均8時間換算)を()外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成30年7月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
108(21)	34.7	8.9	4,627

(注) 1. 従業員数は就業員数(当社から社外への出向者を除いております。)であり、臨時雇用者数(パートタイマーを含み、人材会社からの派遣社員を除いております。)は、年間の平均人員(1日平均8時間換算)を()外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておませんが、労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針

当社グループは「1.嘘をつかず、謙虚に、明るく社会的責任を果たします。2.通信販売に良き改革を与え続け、お客様に、より質の高い商品やサービスを提供します。3.どのような経済環境の変化にも対応できる「自ら進化していく組織」を作ります。」を経営理念とし、社会と共に成長する企業を目指しております。また、当社グループは、「よろこんでもらえる喜び」を事業活動の原動力とし、通信販売及び卸売販売を通じて、お客様の豊かで潤いのある生活をサポートしていくことを使命としております。

(2) 中期的な会社の経営戦略

当社グループは、継続的な成長に加え、企業価値の向上を目指し、平成31年7月期から平成33年7月期までの3カ年を「強みを磨き上げるとともに未来への投資を進め、経営基盤を強化する期間」と位置づけており、海外ECをはじめ成長性の高い分野への投資を戦略的に行うとともに、コストコントロールを徹底し、収益構造の改善を進めてまいります。また、強みである独自商品や特徴的なサービスの深耕を進め、競争優位の創造に努めるとともに、組織体制、内部管理体制、人材育成を強化し、成長を支える強固な経営基盤を構築してまいります。

(3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、長期的な安定成長に向け、収益性をより意識した経営体質を維持することを重視しております。経営指標として、前期対比売上高成長率、売上高経常利益率を採用し、経営環境や各事業の状況に合わせた目標値を設定し、その達成に努めてまいります。

(4) 経営環境

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業の設備投資や輸出の増加、雇用・所得環境の改善を背景に、個人消費が低調ながら持ち直しの動きを見せ、緩やかな景気回復基調で推移いたしました。

小売・卸売業界においては、企業間の競争激化、人手不足による人件費・物流コストの上昇等の厳しい経営環境が続いたものの、成長を続けるEC市場が業界全体を牽引し、拡大を続けてまいりました。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社グループは中期的な経営戦略を推進するために、以下の課題に取り組み、持続可能な成長を目指してまいります。

差別化戦略の推進

消費者のモノ離れが進み、企業間の低価格競争が常態化するなか、真に選ばれる存在となるため、特色ある商品の開発・育成を最優先とするほか、お客様に喜ばれる個性的な企画やサービスの拡充に努め、存在感のある独自のポジションを確立してまいります。また、商品の先にあるライフスタイルの提案力やコミュニケーションスキルを磨き、お客様との関係性を深めることにより、競争優位を創造してまいります。

将来への布石

小売業界では、インターネット・モバイル通販市場が大きく伸長しており、当社グループにも同様の傾向が見られることから、きめ細やかな顧客対応を実現するEC基盤システムやネットショップへの投資を加速するとともに、海外EC展開を推進し、新たな収益の柱の育成を図ります。また、通信販売業界においては、参入者が多く競争が激化しており、顧客の開拓や維持がこれまで以上に難しい状況にあるため、新たな顧客開拓手法の確立や1人あたり年間売上金額の最大化に向けた投資を拡大し、将来の競争優位の基盤作りに努めます。加えて、コストコントロールの徹底や物流センターの有効活用により収益構造を改善し効率的な事業運営を推し進めるほか、グループ力を高めるM&Aを積極的に推進し、持続的な成長の実現を目指します。

強固な経営基盤の構築

財政基盤のさらなる強化に加え、商品や販売チャネルの共有、物流拠点の集約等により効率的なグループ経営を推進するとともに、通販インフラの充実、持続的成長を実現する組織体制の整備、それを支える人材の育成により、強固な経営基盤の構築を目指します。また、内部管理体制の強化及び実効性のある運用により、社会からの要請及びステークホルダーの期待に応えられるよう努めてまいります。

2【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業展開に関するリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項及び投資家の判断に重要な影響を及ぼすと考えられる事項を記載しております。

当社グループは、これらリスク発生の可能性を認識したうえで、発生の回避及び発生した場合には迅速に対応し、その影響の低減に努めるとともに、不測の事態が発生した場合に備え、的確な情報開示を実施しうる体制の構築に取り組んでまいります。

なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであり、全てのリスクを網羅的に記述したものではありません。

景気や個人消費の動向について

当社グループは、国内市場に依存する割合が高く、当社グループの業績は国内の景気や個人消費の動向等の経済環境に大きく左右されます。これらが悪化した場合には、エンドユーザー数の減少や客単価の低下が想定され、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

競争激化に関するリスク

当社グループの主力事業は、通信販売による小売事業であり、近年、情報通信インフラの充実やスマートフォンをはじめとした情報端末の普及に伴い、ネット通販を中心に、大手企業から個人事業主に至るまで通信販売事業への新規参入が相次いでおります。当社グループでは、主力となる商品の大半は自社で開発し、サービスにおいても他社との差別化を特徴としておりますが、今後一層競争が激化した場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

広告宣伝費について

当社グループの主力事業は、通信販売による小売事業であり、主にカタログ配布先である顧客からの注文により事業が成り立っております。無店舗販売という性質上、カタログ配布先である顧客の確保が事業の生命線であるため、顧客開拓を目的とした広告宣伝に係る支出が多額となっております。広告媒体の選別や広告表現のブラッシュアップにより、顧客開拓の効率化を進めておりますが、今後、広告料金の高騰や宣伝効率の悪化等により広告宣伝費が増加した場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

生産国の状況変化

当社グループの営業収入のうち、重要な部分を占める製品である「ダイエットプーアール茶」の原材料は、中国国内で生産されているため、中国国内における政治情勢や経済状況の変化等、予期せぬ事象により、原材料製造や品質管理体制に問題が生じた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

法令・規制の変化

当社グループは、健康茶、健康食品、化粧品等の小売事業及び卸売事業、並びに不動産賃貸事業を行っております。当該事業を営業するうえで関連する多様な法的規制を受けております。

当社グループでは、内部統制及びコンプライアンス管理体制を整備・構築し、法令遵守の徹底に努めておりますが、法的規制に抵触した場合、又は改正等に伴い法的規制が強化された場合、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

M & Aにおけるリスク

当社グループは、今後の事業規模の拡大、収益源の多様化を進めるにあたり、M & Aを重要な戦略の一つとして認識しており、積極的に活用していく方針であります。M & Aにあたっては、対象会社の業績や財務内容、契約関係を詳細に調査するとともに、当社グループとの相乗効果を十分に考慮し慎重に進めてまいります。買収後、想定外のリスクが顕在化した場合や、当初期待した効果が得られず、戦略目的が達成できない場合において、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

特定製品への依存度

当社グループは、小売事業の主力製品として、「ダイエットプーアール茶」・「メタボメ茶」を販売しております。両製品に続く新しい製品の企画、開発に努めてまいりますが、当該新製品が軌道に乗るまでは、両製品への依存度は現在と変わらず高いものとなります。「ダイエットプーアール茶」・「メタボメ茶」の製造又は原材料仕入に関して事故等の不測の事態が生じた場合には、一時的にその仕入が停止し、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、両製品の信頼性を揺るがすような想定外の事態が生じた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

商品の品質管理について

当社グループは、食品の安全性確保のため、国や地方自治体の定める条例や関連法規を遵守するとともに、品質検査や適法検査等を強化する等、独自の基準を設けており、当該基準を満たした商品のみを取扱うこととしておりますが、何らかの理由で基準を満たさない商品が顧客に販売され、当該商品に不具合が生じた場合には、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

風評被害について

当社グループでは、健康食品を取扱っており、その安全性や広告表現については関連法規を遵守し、独自の基準を設け厳しく管理しておりますが、当社グループの取扱商品や原材料と同一又は類似した商材において、一般市場にて安全性に疑義が生じるような事態が発生した場合、風評被害が発生する可能性があります。また、小売事業では中国で生産されたプーアール茶原料を使用しており、中国食品について同様の事態が発生した場合や、当社グループもしくは主要仕入先周辺において、原子力発電所における放射能漏れ事故のような不測の事態が発生した場合には、同じく風評による被害が発生する可能性があり、関連商品の買い控えや当社の信頼性が低下する等、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

個人情報保護関連

当社グループの小売事業では、個人情報のストックビジネスである通信販売を行っており、取扱う個人情報量も多く、「個人情報の保護に関する法律」に定める個人情報取扱事業者に該当しております。個人情報の漏洩等は、社会に多大な影響を与えることから、個人情報の保護、適正利用に関し、厳正かつ厳重に管理することは、極めて重要な責務ととらえており、プライバシーマークの認証を受けるとともに、システム面においては、外部からの不正アクセス及びウィルス感染の防御等の対策を講じております。しかしながら、何らかの理由により、当社グループの保有する個人情報が漏洩した場合には、当社グループの信用の失墜に繋がるとともに、事後対応等に関するコストの増加等、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

システムリスク

当社グループの小売事業では、顧客情報、受注情報、役員及び従業員の個人情報並びに取引先等に係る法人情報等、業務に係る情報をシステム管理しており、業務のほぼすべてにおいてコンピュータ処理がなされております。小売事業では、重要データを複数遠隔地でバックアップ保管、インターネット公開サーバを多重化するなど運用保守には万全を期し、セキュリティの強化を図っておりますが、大災害、ウィルス感染、サイバーテロ等により、大規模なシステム障害やインターネットに障害が発生した場合には、各種業務が滞り、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

製品の外注委託先の品質管理について

当社グループは、製品の製造のすべてを外部で行っております。製造元に対する厳正な管理体制を整備し、当社グループの製品及び使用原材料の安全性を常に確保できるようトレーサビリティの推進に努め、品質管理についても万全を期しておりますが、事前の予想の範囲を超えた品質事故や何らかの法的違反が発生した場合には、当社グループの製品の安全性に係る風評の発生、信用の失墜等、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

商品仕入先の品質管理について

当社グループは、商品仕入先に対する厳正な管理体制を整備し、商品の安全性を常に確保できるよう、品質管理についても万全を期しておりますが、事前の予想の範囲を超えた品質事故や何らかの法的違反が発生した場合には、当社グループの商品の安全性に係る風評の発生、信用の失墜等、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

自然災害による影響

当社グループは、自然災害等による業務への影響を最小限にするために、小売事業における主要ネットワークシステムの多重化（本社サーバ・委託先サーバ）を実施するとともに、小売事業の拠点である当社においては、静岡県建築構造設計指針・同解説（平成14年度版）による新耐震診断判定基準に対応した耐震対策の実施・保守管理の徹底、防災マニュアルの整備等の対策を講じております。しかしながら、大規模地震等の自然災害が起こり、当社グループ及び業務委託先の設備等に被害が生じた場合には、受注処理や出荷業務等が困難となり、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

天候のリスク

当社グループの主力商品群である茶飲料の原材料は、茶葉・黒豆・蒲公英根（たんぽぽ根）等の農産物であるため、当社グループの小売事業が天候による影響を受ける可能性があります。特にプーアール茶原料は、主力製品である「ダイエットプーアール茶」・「メタボメ茶」に使用されており、異常気象など天候不良による不作が生じた場合には、必要量の不足に伴う販売機会ロスや仕入価格の上昇が想定されるため、天候不良が当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

返品・交換について

当社グループの小売事業においては、商品到着後30日以内であれば、お客様にお買上げいただいた商品の返品・交換を受け付けております。そのため、恒常的に返品・交換が発生しておりますが、現状、その数は僅少であり、大勢に影響はありません。しかしながら、何らかの理由により見込みを大幅に超えて返品・交換が発生するような場合には、返送品の処理、代替商品の配送等、追加的な費用が発生するため、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

為替変動リスク

当社グループの卸売事業では、外貨による輸入取引を行っております。為替変動による仕入価格の変動に関しては、デリバティブ取引によるリスクヘッジや、仕入価格の動向を勘案して販売価格を改定する等の方策を採っておりますが、予想の範囲を超えた急激な為替変動が生じた場合等において、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

デリバティブ取引のリスク

当社グループの卸売事業では、為替変動をヘッジするために、デリバティブ取引を行っております。当該デリバティブ取引は、四半期末ごとに時価評価したうえで損益処理することとしており、この評価損益が当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業の設備投資・輸出の増加、雇用・所得環境の改善などを背景に、個人消費が低調ながら持ち直しの動きをみせ、緩やかな景気回復基調で推移いたしました。

当社グループが属する小売・卸売業界においては、企業間の競争激化、人手不足による人件費・物流コストの上昇等の厳しい経営環境が続いたものの、成長を続けるEC市場が業界全体を牽引し、拡大を続けてまいりました。

このような環境のなか、当社グループは「差別化戦略の推進・将来への布石・強固な経営基盤の構築」を経営方針として掲げ、特定市場でトップシェアを狙うNO.1商品や独自性のあるオンリーワン商品の開発・育成に取り組むとともに、他社にないサービス、顧客との密度の高いコミュニケーションにより、競争優位を基礎とした経営基盤作りに努めてまいりました。さらに、未来への投資として、戦略商品の育成や新規顧客獲得、海外を含めた新たな市場の開拓に注力してまいりました。また、平成29年8月1日に、当社の100%子会社でありましたコラムジャパン株式会社を吸収合併し、物流業務の内製化等、事業運営の効率化を進めるとともに、不動産賃貸事業の拡大に向け、新たに収益不動産を取得する等、経営資源の最適化に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度における売上高は7,289百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

損益面では、営業利益は458百万円（同4.9%減）、経常利益は470百万円（同14.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は423百万円（同7.7%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

また、売上高については、セグメント間取引の調整後の数値であり、セグメント利益については、セグメント間取引の調整前の数値であります。

（小売事業）

小売事業では、「ダイエットプーアール茶」・「メタボメ茶」等の主力商品に加え、「チョウ活宣言®活性フローラ」等の継続利用が見込まれる商品の新規顧客の開拓や定期会員の確保に注力するとともに、お茶の成分を使用した基礎化粧品「teatea（ティアティア）」、第3類医薬品「ティアホワイト」を新発売するなど、商品力の強化を図ってまいりました。EC市場におきましては、大手外部モールにて当社商品のシェア拡大を進め、楽天市場では「楽天ショップ・オブ・ザ・イヤー2017」のダイエット・健康部門ジャンル賞を受賞、そのほかネットショップ関連の賞を受賞いたしました。海外販売におきましては、台湾を中心としたアジア圏に自社商品を展開し、販路拡大に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は5,171百万円（前年同期比4.1%減）、セグメント利益は台湾での事業拡大に向けた先行投資や国内配送料金の値上げ等により、356百万円（同14.0%減）となりました。

（卸売事業）

卸売事業では、北欧寝具ブランド「Danfill（ダンフィル）」や新デザインの寝具、ドイツブランド「Leschi（レッシー）」のウォーミングピロー等の新商品を販売したほか、独自のあたたか素材を使用した衣類「Le bois（ルボア）」の品揃え拡充や、顧客ニーズに対応した商品開発、商品パッケージの刷新等により、他社との差別化、ブランドの強化を推進してまいりました。また、欧州の商品展示会に参加し、新商品開拓に取り組むとともに、取扱い商品毎のブランドコンセプトに沿った展示会に出展し、販路拡大に努めたほか、販売先の業務縮小等により売上が伸び悩んだ商材については、販路の見直しを進めてまいりました。

この結果、売上高は2,012百万円（前年同期比7.9%増）、セグメント利益はコラムジャパン株式会社を吸収合併したことに伴う物流業務の内製化等による費用圧縮により、28百万円（同201.9%増）となりました。

（不動産賃貸事業）

不動産賃貸事業では、平成30年3月30日に新たに当社物流センターに隣接する土地及び建物を取得し、さらに賃貸エリアを拡大するとともに、賃貸営業の強化を図ってまいりました。

この結果、売上高は105百万円（前年同期比61.2%増）、セグメント利益は85百万円（同56.6%増）となりました。

なお、当社は、消費者庁より平成29年9月29日付けで、当社が販売している「ダイエットプーアール茶」のウェブ広告表現の一部において、不当景品類及び不当表示防止法第7条第1項の規定に基づく措置命令を受けました。

当社では、今般の事態を厳粛に受け止め、広告表現に関する法規制に関する教育の強化・充実に取り組むとともに、品質管理部門によるモニタリングを継続的かつ計画的に実施するなど、コンプライアンス体制をより一層強化し、法令遵守を徹底することで再発防止に努めてまいります。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ85百万円増加し、1,818百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、429百万円（前年同期比17.2%減）となりました。

これは、主に法人税等の支払額127百万円があったものの、税金等調整前当期純利益470百万円、減価償却費62百万円があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、563百万円（前年同期は1百万円の獲得）となりました。

これは、主に有形固定資産の取得による支出503百万円、投資有価証券の取得による支出41百万円があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、219百万円（前年同期は299百万円の使用）となりました。

これは、長期借入金の返済による支出115百万円、配当金の支払額144百万円があったものの、長期借入れによる収入480百万円があったことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

イ．生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月31日)	前年同期比(%)
小売事業 (千円)	431,451	92.5
卸売事業 (千円)	-	-
不動産賃貸事業 (千円)	-	-
合計 (千円)	431,451	92.5

(注) 1. 卸売事業及び不動産賃貸事業は、生産活動を行っておりませんので、記載しておりません。

2. 金額は、製造原価によっております。

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

ロ．商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月31日)	前年同期比(%)
小売事業 (千円)	906,542	104.6
卸売事業 (千円)	1,264,147	107.2
不動産賃貸事業 (千円)	-	-
合計 (千円)	2,170,689	106.1

(注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 不動産賃貸事業は、商品仕入活動を行っておりませんので、記載しておりません。

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

ハ．受注実績

当社グループ(当社及び連結子会社)は、カタログやインターネット等を通じて一般消費者に健康茶、健康食品、化粧品等を販売する「小売事業」及び主にテレビショッピングやカタログ販売を行う通信販売会社や小売店等に生活雑貨や食品等を販売する「卸売事業」を主たる事業として行っておりますが、受注から商品発送までのリードタイムは極めて短いものであるため、受注実績の記載は行っておりません。また、「不動産賃貸事業」については、該当事項はありません。

二．販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月31日)	前年同期比(%)
小売事業 (千円)	5,171,693	95.9
卸売事業 (千円)	2,012,547	107.9
不動産賃貸事業 (千円)	105,168	161.2
合計 (千円)	7,289,410	99.6

(注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている企業会計の基準に基づき作成されております。その作成にあたっては、当連結会計年度末における資産、負債の報告数値、並びに報告期間における収益、費用の報告数値に影響を与える見積り及び仮定設定を行う必要があります。当社グループの経営陣は、連結財務諸表作成の基礎となる見積り、判断及び仮定を、過去の実績等を勘案して合理的と判断される入手可能な情報により継続的に検証し、意思決定を行っております。しかしながら、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は、これらの見積りと異なる場合があります。

なお、連結財務諸表作成のための重要な会計方針は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)」に記載されているとおりであります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当グループの当連結会計年度の経営成績等の状況及び分析・検討内容は、以下のとおりであります。

当連結会計年度は、中期経営計画「将来の成長に向けた挑戦」をスローガンに、「進化するウェルネス&サポート企業」を3年後のあるべき姿とし、当社グループの特徴・強みを磨き上げるとともに、海外市場等の成長に繋がる分野へ積極的に投資するなど、継続的な成長を支える経営基盤の強化に取り組んでまいりました。その結果については、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析(1) 経営成績等の状況の概要」に記載のとおりであります。

今後については、不動産賃貸等の自社資産を活用した事業の収益化や、海外販売拠点の拡大など、成長に繋がる分野へ投資するとともに、通信販売のプラットフォームを活用した新規事業の創出、シナジーの見込めるM&Aの推進など、新たな収益の柱となる事業の開発・育成に注力してまいります。併せて、収益を下支えする既存事業については、新規開拓の効率化や物流費などのコストコントロールを徹底し、事業ポートフォリオに基づく経営管理により経営資源の効率的な配分を行い、未来への投資を可能とする強固な経営・財務基盤の構築に取り組んでまいります。

イ. 財政状態の分析

a. 資産

当連結会計年度末の資産合計は、6,038百万円(前連結会計年度末比607百万円増)となりました。

流動資産の増加(同133百万円増)は、主に現金及び預金が85百万円、繰延税金資産が40百万円増加したことによるものであります。

固定資産の増加(同474百万円増)は、主に収益不動産の取得等により有形固定資産の土地が433百万円、有形固定資産の建物及び構築物が30百万円増加したことによるものであります。

b. 負債

当連結会計年度末の負債合計は、1,568百万円(前連結会計年度末比324百万円増)となりました。

流動負債の増加(同48百万円増)は、主に未払法人税等が35百万円、賞与引当金が16百万円減少したものの、1年内返済予定の長期借入金が96百万円増加したことによるものであります。

固定負債の増加(同275百万円増)は、主に長期借入金が268百万円増加したことによるものであります。

c. 純資産

当連結会計年度末の純資産合計は、4,470百万円(前連結会計年度末比282百万円増)となり、この結果、自己資本比率は74.0%となりました。

純資産の増加は、主に利益剰余金が278百万円増加したことによるものであります。

ロ. 経営成績の分析

a. 売上高

売上高は、前連結会計年度に比べ31百万円減少し、7,289百万円となりました。卸売事業において、寝具等のテレビショッピングでの売上高が伸長したほか、不動産賃貸事業において、収益不動産の取得により賃貸収入が増加したものの、小売事業において、新規顧客及び定期会員数の伸びが鈍化し、売上高が計画を下回ったことによるものであります。

b. 売上原価

売上原価は、卸売事業において食品等の原価率の高い商品の売上構成比が高まったこと等により、2,637百万円(前連結会計年度比107百万円増)となり、売上原価率は、36.2%(同1.6ポイント増)となりました。

c. 販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、小売事業における費用対効果の見直しによる広告宣伝費の抑制に加え、卸売事業におけるコラムジャパン株式会社の吸収合併に伴う物流業務の内製化等による費用圧縮により、4,194百万円(前連結会計年度比115百万円減)となりました。

d. 営業利益

営業利益は、販売費及び一般管理費の削減はあったものの、売上高の減少、売上原価率の悪化により、458百万円(前連結会計年度比23百万円減)となり、売上高営業利益率は、6.3%(同0.3ポイント減)となりました。

e. 営業外損益

営業外収益は、デリバティブ評価益13百万円など、合計35百万円(前連結会計年度比41百万円減)を計上しております。

営業外費用は、行政処分対応費として18百万円など、合計23百万円(同11百万円増)を計上しております。

f. 経常利益

経常利益は、470百万円(前連結会計年度比76百万円減)となり、売上高経常利益率は、6.5%(同1.0ポイント減)となりました。

g. 特別損益

特別利益は、保険解約返戻金852千円(前連結会計年度比97百万円減)を計上しております。

特別損失は、固定資産除却損329千円(前連結会計年度比10百万円減)を計上しております。

h. 税金等調整前当期純利益

税金等調整前当期純利益は、470百万円(前連結会計年度比163百万円減)となりました。

i. 親会社株主に帰属する当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益は、法人税等47百万円を計上した結果、423百万円(前連結会計年度比35百万円減)となりました。

八. 資本の財源及び資金の流動性についての分析

a. キャッシュ・フロー

当社グループは、全国の一般消費者に対し、直接あるいは通信販売業や小売業等を営んでいる取引先を通じて商品を販売しており、安定的に売上金の回収を行っております。商品在庫を適正水準に維持するなど必要運転資金の増加を抑え、キャッシュ・フローの安定的な確保に努めております。

なお、キャッシュ・フローの詳しい状況については、前述の「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

b. 資金需要

当社グループの資金需要の主なものは、商品仕入、委託製造のための原材料の購入及び外注加工賃などの製造費や広告宣伝費・荷造運搬費などの運転資金並びにシステム投資等の設備投資であり、営業活動により獲得した資金及び金融機関からの借入によりまかなわれております。

二. 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」において記載しております。

4【経営上の重要な契約等】

(1) 当社は、有限会社ナチュラルアート、新光貿易株式会社及び雲南中茶茶業有限公司との4社間においてプーアル茶原料の安定供給について、下記の契約を締結しております。

契約先	所在地	契約の内容	契約年月
有限会社ナチュラルアート 新光貿易株式会社 雲南中茶茶業有限公司	横浜市 横浜市 中国雲南省	「商品供給基本契約書」 プーアル茶原料の生産、品質管理及び供給体制に関する基本契約	契約締結日：平成26年1月1日 契約期間は、平成26年1月1日より1年間、以後1年ごとの自動更新

(2) 当社は、平成30年3月5日開催の取締役会において、不動産を取得することを決議し、平成30年3月30日付で不動産売買契約を締結いたしました。

(3) 当社は、平成30年7月12日開催の取締役会において、株式会社Lifeitの全株式を取得して子会社化することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な後発事象) (取得による企業結合)」に記載のとおりであります。

5【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度中に実施しました当社グループの設備投資の総額（無形固定資産を含めております。）は521百万円であります。その主なものは、不動産賃貸事業に係る収益不動産の取得に係る投資474百万円であります。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成30年7月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	ソフト ウェア (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
本社 (静岡県島田市)	小売事業	総括事業施設	113	114 (3,279.40)	36	14	278	84 (11)
袋井センター (静岡県袋井市)	小売事業 不動産賃貸事業	物流倉庫	296	1,354 (57,994.64)	0	18	1,670	22 (10)

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、機械及び装置、車両運搬具、工具、器具及び備品であります。なお、金額には消費税等を含めておりません。
2. 袋井センターには、賃貸中の土地775百万円(40,301.38㎡)、建物154百万円を含んでおります。
3. 従業員数は就業員数(当社から社外への出向者を除いております。)であり、臨時雇用者数(パートタイマーを含み、人材会社からの派遣社員を除いております。)は、年間の平均人員(1日平均8時間換算)を()外数で記載しております。

(2) 国内子会社

平成30年7月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額			従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
株式会社 アペックス	本社 (群馬県高崎市)	卸売事業	総括事業施設	24	1	25	23 (4)
株式会社 ダイカイ	本社 (愛知県名古屋市)	卸売事業	総括事業施設	14	0	15	18 (5)

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、車両運搬具、工具、器具及び備品、ソフトウェアであります。なお、金額には消費税等を含めておりません。
2. 従業員数は就業員数(提出会社から子会社への出向者を含んでおります。)であり、臨時雇用者数(パートタイマーを含み、人材会社からの派遣社員を除いております。)は、年間の平均人員(1日平均8時間換算)を()外数で記載しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して計画を策定しております。

なお、重要な設備の新設、除却等の計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,000,000
計	14,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成30年7月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年10月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,250,000	4,250,000	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利関係に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、1単元株式数は100株であります。
計	4,250,000	4,250,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年3月5日 (注)	750,000	4,250,000	176,625	356,625	176,625	326,625

(注) 有償一般募集(ブックビルディング方式による募集)

発行価格 510円

引受価額 471円

資本組入額 235.50円

払込金総額 353,250千円

(5) 【所有者別状況】

平成30年7月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	18	15	52	20	5	6,561	6,671	-
所有株式数(単元)	-	3,597	345	12,262	356	412	25,508	42,480	2,000
所有株式数の割合(%)	-	8.47	0.81	28.87	0.84	0.97	60.05	100.00	-

(注) 自己株式96株は、「単元未満株式の状況」に含めて記載しております。なお、株主名簿記載上の自己株式数と、平成30年7月31日現在の実質的な所有株式数は一致しております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年7月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社N & K	静岡県島田市横岡新田38-1	1,100,000	25.88
植田 伸司	静岡県島田市	271,450	6.39
植田 佳代子	静岡県島田市	125,000	2.94
山田 壽雄	静岡県静岡市駿河区	100,000	2.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	94,200	2.22
ティーライフ従業員持株会	静岡県島田市牛尾118	93,350	2.20
浅井 五郎	静岡県静岡市清水区	70,400	1.66
植田 翔子	東京都江東区	70,000	1.65
植田 元気	東京都世田谷区	70,000	1.65
若杉 精三郎	大分県別府市	60,000	1.41
計	-	2,054,400	48.34

(注) 発行済株式総数(自己株式を除く。)に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成30年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式4,248,000	42,480	完全議決権株式であり、権利関係に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、1単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式2,000	-	-
発行済株式総数	4,250,000	-	-
総株主の議決権	-	-	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式96株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年7月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	-	-
当期間における取得自己株式	1	1,224

(注)「当期間における取得自己株式」には、平成30年10月1日から本有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (-)	-	-	-	-
保有自己株式数	96	-	97	-

(注) 当期間における「保有自己株式数」には、平成30年10月1日から本有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式数は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要な課題と位置づけており、企業体質の強化及び今後の事業拡大のための内部留保の充実を勘案しつつ、配当性向30%を目途に、每期安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当連結会計年度の配当につきましては、上記の基本方針に基づき当期は1株当たり34円(うち中間配当17円)を実施することを決定いたしました。

内部留保金につきましては、今後の業界の競争激化に対応するため、より高付加価値な商品の開発や業容の拡大に伴う成長投資として適切に活用してまいります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年1月31日を基準日として中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

また、当社は連結配当規制適用会社であります。

(平成30年7月期の剰余金の配当の決議内容)

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成30年3月5日取締役会決議	72,248	17.00
平成30年10月25日定時株主総会決議	72,248	17.00

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期
決算年月	平成26年7月	平成27年7月	平成28年7月	平成29年7月	平成30年7月
最高(円)	999	1,170	1,129	1,936	1,619
最低(円)	564	760	730	919	1,156

(注) 最高・最低株価は、平成26年7月7日以前は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成26年7月8日付より東京証券取引所市場第二部におけるものであり、平成28年10月11日付より東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成30年2月	3月	4月	5月	6月	7月
最高(円)	1,339	1,254	1,284	1,384	1,379	1,398
最低(円)	1,207	1,156	1,194	1,265	1,331	1,285

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

男性 9名 女性 1名 (役員のうち女性の比率10.0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役社長 (代表取締役)		植田 伸司	昭和24年12月4日生	昭和47年4月 静岡小松フォークリフト株式会社入社 昭和52年4月 株式会社覚丸文佐藤商店入社 昭和58年8月 当社設立 代表取締役社長就任(現任) 昭和62年12月 株式会社植田茶園(平成2年2月、株式会社ウエダに商号変更)設立 同社代表取締役社長就任 平成4年8月 株式会社ウエダ解散 同社代表取締役社長を退任 平成24年11月 株式会社アベックス代表取締役会長就任(現任) 平成25年11月 コラムジャパン株式会社取締役会長就任 平成26年8月 株式会社ダイカイ取締役会長就任 平成30年8月 株式会社Lifeit代表取締役会長就任(現任) 平成30年10月 株式会社ダイカイ代表取締役会長(現任)	(注)3	271,450
専務取締役	コーポレート 本部長	鈴木 守	昭和25年1月4日生	昭和48年3月 株式会社ムトウ(現株式会社スクロール)入社 平成3年4月 株式会社ミック(現株式会社スクロール360)総務部長 平成5年4月 株式会社ムトウクレジット総務部長 平成8年6月 同社取締役就任 総務部長 平成15年4月 株式会社ムトウ(現株式会社スクロール)経理部長 平成17年4月 株式会社ムトウクレジット取締役就任 管理部長 平成18年4月 当社入社 経理部長 平成18年10月 取締役就任 経理部長 平成21年2月 常務取締役就任 企画管理部長 平成22年8月 常務取締役管理部長 平成24年8月 常務取締役経営企画部長 平成24年11月 株式会社アベックス取締役就任 平成25年11月 コラムジャパン株式会社取締役就任 平成26年8月 専務取締役就任 株式会社ダイカイ代表取締役社長就任 平成30年10月 専務取締役 コーポレート本部長(現任)	(注)3	25,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	FF本部長兼 コミュニケーション部長兼 法人事業部長	湯川 和俊	昭和47年6月15日生	平成10年4月 株式会社ディー・エム・ジェイ入社 平成11年8月 株式会社インターメディア出版入社 平成17年3月 株式会社プレミアム入社 平成20年3月 当社入社 平成22年8月 事業推進部長 平成24年8月 商品企画販売部長 平成25年10月 取締役就任 商品企画販売部長 平成26年2月 取締役顧客開拓部長 平成27年2月 コラムジャパン株式会社代表取締役社長就任 平成28年11月 取締役袋井センター長 平成29年8月 取締役法人事業部長兼袋井センター長 平成30年8月 取締役FF本部長兼法人事業部長 平成30年9月 取締役FF本部長兼コミュニケーション部長兼法人事業部長(現任) 平成30年10月 株式会社ダイカイ取締役就任(現任)	(注)3	20,600
取締役	国内事業本部長 兼商品企画販売部長	須浪 薫	昭和37年1月29日生	昭和57年4月 三洋電機株式会社入社 平成4年1月 株式会社セシール(現株式会社ディノス・セシール)入社 平成18年8月 株式会社CSKシステムズ(現SCSK株式会社)入社 平成19年6月 株式会社ビューティ花壇入社 平成19年7月 同社新規事業部長 平成21年10月 同社執行役員就任 管理本部長兼広報・IR室長 平成22年9月 同社取締役就任 管理本部長兼広報・IR室長 平成23年6月 同社取締役経営企画室長兼管理本部長 平成25年6月 同社取締役コーポレート本部長兼新規事業本部長 平成25年9月 同社常務取締役就任 コーポレート本部長兼新規事業本部長 平成25年10月 同社常務取締役新規事業本部長 平成27年8月 当社入社 経営企画部次長 平成27年11月 マーケティング部長 平成28年8月 商品企画販売部長 平成28年10月 取締役就任 商品企画販売部長 平成29年3月 提来福股份有限公司董事就任(現任) 平成30年8月 取締役国内事業本部長兼商品企画販売部長(現任) 株式会社Lifeit代表取締役社長就任(現任)	(注)3	200

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	E C・海外事業 本部長兼E C事 業部長兼海外事 業部長	草間 崇	昭和40年10月12日生	平成元年4月 株式会社リクルート(現 株式会社リクルートホール ディングス)入社 平成17年7月 同社通販ユニットメディア プロデュース部ゼネラルマ ネジャー 平成25年11月 エルゼビア・ジャパン株式 会社入社 セールス&マーケティング マネジャー 平成27年8月 当社入社 ネット事業部次 長 平成27年10月 ネット事業部長 平成28年8月 ネットショップ部長 平成29年3月 提来福股份有限公司董事長 就任(現任) 平成29年10月 取締役就任 ネットショッ プ部長 平成30年8月 取締役E C・海外事業本部 長兼E C事業部長兼海外事 業部長(現任) 株式会社Lifeit取締 役就任(現任)	(注)3	-
取締役		萩原 俊彦	昭和43年5月3日生	平成4年4月 アンダーセンコンサルティ ング(現 アクセンチュア 株式会社)入社 平成12年7月 株式会社テレマーケティング ジャパン(現 株式会社 TMJ)入社 平成16年11月 株式会社JIMOS入社 平成17年9月 同社取締役就任 平成22年7月 株式会社水永水産取締役就 任 営業部長 平成24年2月 萩原俊彦事務所設立代表就 任 平成25年8月 当社顧問 平成25年10月 取締役就任 平成25年11月 取締役カタログ推進部長 平成26年2月 取締役マーケティング部長 平成26年8月 取締役経営企画部長 平成28年10月 常務取締役就任 経営企画 部長 平成29年3月 提来福股份有限公司董事就 任 平成30年8月 常務取締役コーポレート本 部長兼コーポレート部長 株式会社Lifeit取締 役就任(現任) 平成30年9月 常務取締役コーポレート本 部長 平成30年10月 取締役(現任)	(注)3	4,200

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役		三好 宏明	昭和44年4月21日生	昭和63年4月 住友セメント株式会社 (現 住友大阪セメント株 株式会社)入社 平成4年10月 株式会社オートガーデン入 社 平成6年11月 株式会社ジャック(現 カーチスホールディング ス)転籍 平成17年5月 株式会社JIMOS執行役 員就任 平成20年6月 株式会社アウトレットブラ ザ代表取締役就任 平成25年1月 株式会社サイバードホール ディングス転籍 平成25年4月 クックパッド株式会社執行 役就任 平成25年10月 マグネット株式会社代表取 締役就任 平成26年8月 セレクチュア株式会社代 表取締役就任 平成26年12月 クックパッド産地直送便株 式会社代表取締役就任 平成28年10月 セレクチュア株式会社常 務取締役就任 平成30年4月 株式会社ゆずくる代表取締 役就任(現任) 平成30年10月 当社取締役就任(現任)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (常勤監査等 委員)		鈴木 良房	昭和30年4月16日生	昭和49年3月 株式会社ムトウ(現 株式 会社スクロール)入社 平成19年8月 当社入社 マーケティング 部長 平成21年2月 インターネット部長 平成21年10月 取締役就任 インターネッ ト部長 平成22年2月 取締役事業推進部長 平成22年8月 取締役経営企画部長 平成24年8月 取締役事業推進部長 平成25年2月 取締役カタログ推進部長兼 務ネット推進部長 平成25年11月 取締役ネット推進部長 平成26年2月 取締役新規事業部長 平成27年2月 取締役ネット事業部長 平成27年10月 常勤監査役就任 株式会社アベックス監査役 就任(現任) コラムジャパン株式会社監 査役就任 株式会社ダイカイ監査役就 任(現任) 平成28年10月 取締役(常勤監査等委員) 就任(現任) 平成29年3月 提来福股份有限公司監察人 就任(現任) 平成30年8月 株式会社Lifeit監査 役就任(現任)	(注)4	7,500
取締役 (監査等委員)		小松原 康久	昭和25年2月25日生	昭和47年4月 株式会社静岡銀行入行 平成11年4月 同行執行役員東京支店長 平成13年6月 同行取締役常務執行役員就 任 平成15年6月 静銀リース株式会社代表取 締役社長就任 平成17年6月 静岡モーゲージサービ ス株式会社(現 静銀モーゲ ージサービス株式会社)代表 取締役社長就任 平成19年6月 同社取締役会長就任 平成20年10月 当社監査役就任 平成24年6月 理研軽金属工業株式会 社監査役就任 平成28年10月 当社取締役(監査等委員) 就任(現任)	(注)4	5,000
取締役 (監査等委員)		酒井 由香里	昭和43年6月23日生	平成3年4月 野村證券株式会社入社 平成11年9月 キャピタルドットコム株式 会社入社 平成13年5月 株式会社コーポレート チューン設立に参画 平成17年1月 同社取締役就任 平成17年6月 株式会社コナイテッドア ローズ社外監査役就任 平成20年6月 株式会社リプロセス社外監 査役就任 平成25年9月 株式会社ビューティ花壇社 外監査役就任(現任) 平成28年6月 株式会社コナイテッドア ローズ社外取締役(常勤監 査等委員)就任(現任) 平成29年10月 当社取締役(監査等委員) 就任(現任)	(注)4	-
計						333,950

(注) 1. 三好宏明、小松原康久及び酒井由香里は、社外取締役であります。 2. 当社の監査等委員会の体制は次のとおりであります。

委員長 鈴木良房、委員 小松原康久、委員 酒井由香里

なお、鈴木良房は、常勤の監査等委員であります。取締役会及び社内の重要会議等への出席などによる社内情報の収集等を通して、多角的な視点から取締役の業務執行を監視するとともに、会計監査人や内部監査部門との連携を密に図るため、常勤監査等委員を選定しております。

3. 平成30年7月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年7月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 平成30年7月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年7月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営の健全性及び透明性の確保と継続的な企業価値の向上を経営課題とし、その実現に向け、コーポレート・ガバナンスの強化及び充実が重要課題であると認識しております。法令遵守の徹底、内部牽制機能の強化を通じて、経営の健全化と透明性の確保に努めてまいります。

企業統治の体制

イ．企業統治の体制の概要

当社は、平成28年10月27日開催の第33期定時株主総会決議に基づき、同日付で監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行しており、株主総会、取締役会、監査等委員会、経営会議、内部監査室といった機関を適切に機能させ、企業として適法な運営を行っております。また、コンプライアンスや重要な法的判断については、弁護士と顧問契約を締結しており、随時相談・確認できる体制を整えております。

a．取締役会

当社の取締役会は、提出日現在10名（うち社外取締役3名）で構成され、経営の基本方針、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、取締役の職務の執行状況を監督しております。また、取締役会規程に則り、月1回を原則とし、必要に応じ随時、臨時取締役会を開催し、迅速かつ的確な意思決定をしております。

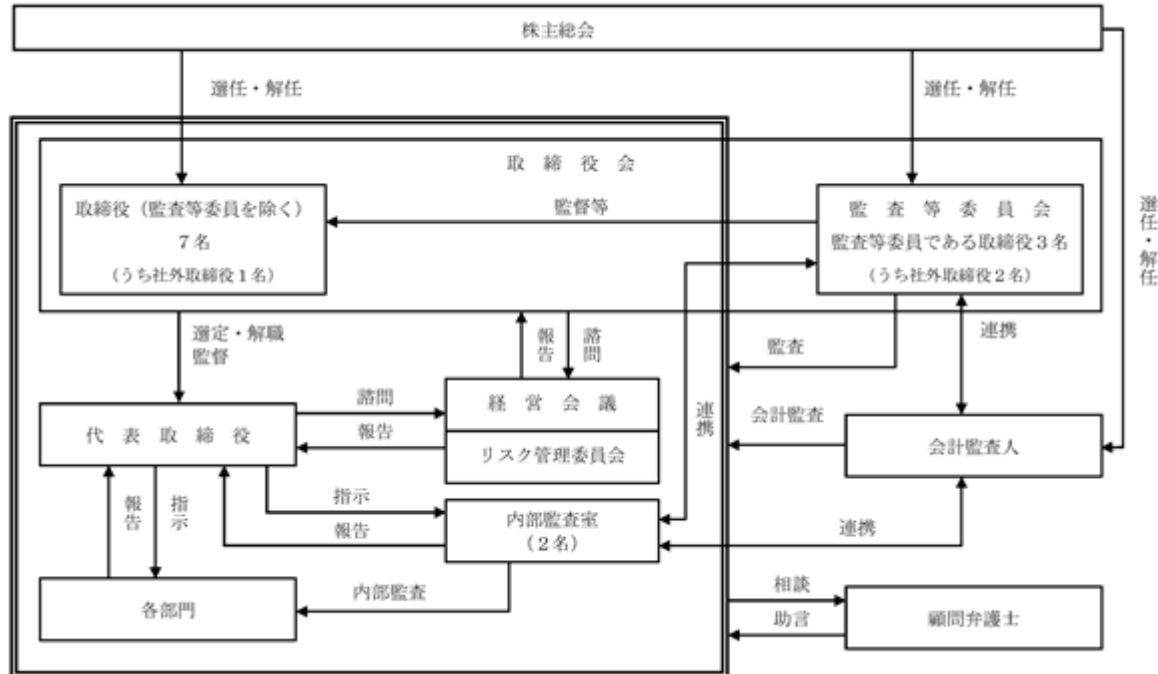
b．監査等委員会

当社の監査等委員会は、提出日現在3名（常勤取締役1名、社外取締役2名）の監査等委員で構成され、監査等委員会規程に則り、月1回を原則とし、必要に応じ随時、臨時監査等委員会を開催し、公正・客観的立場から監査を実施しております。

c．経営会議

当社の経営会議は取締役及び部長職で構成され、経営方針・計画に基づき、業務計画を執行するにあたっての重要事項を報告・審議・決定するとともに、全社又は各部門の経営課題や取締役会上程前の議案を審議しております。また、経営会議規程に則り、毎月1回を原則とし、必要に応じ随時、臨時経営会議を開催し、迅速かつ的確な意思決定をしております。

当社の企業統治の体制を図示すると、次のとおりであります。



ロ．当該体制を採用する理由

当社は、コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的かつ中立の経営監視機能が重要と考えているため、監査等委員会を設置し、社外取締役2名を含む監査等委員である取締役に取締役会における議決権を付与することで、取締役会の監査・監督機能を強化し、さらなる企業価値の向上を図るために当該体制を採用しております。

八．その他の企業統治に関する事項

a．内部統制システムの整備状況

当社は、内部統制システムを整備する目的を「業務の有効性・効率性の向上」「財務報告の信頼性の確保」「法令遵守」「資産の保全」と認識しており、平成28年10月27日開催の取締役会にて承認された下記の「内部統制システム構築に関する基本方針」に則り、体制の整備を行っております。

「内部統制システム構築に関する基本方針」

1．監査等委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人に関する事項、当該取締役及び使用人の監査等委員以外の取締役からの独立性並びに当該取締役及び使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

- (1) 監査等委員会の職務は、内部監査室が補助する。
- (2) 内部監査室は、監査等委員会の指揮のもと監査等委員会の監査業務を補助する。
- (3) 内部監査室に所属する主要な使用人の人事異動や人事評価に関しては、監査等委員会の事前の同意を得る。
- (4) 当社は、監査等委員会の職務を補助すべき取締役を置かない。

2．取締役及び使用人等が監査等委員会に報告をするための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制

- (1) 取締役及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者は、監査等委員会の求めに応じて、随時その職務の執行状況その他に関する報告を行う。また、当社は、子会社の取締役、監査役、使用人及びこれらの者から報告を受けた者が、監査等委員会の求めに応じて、随時その職務の執行状況その他に関する報告を行うよう指導する。
- (2) 取締役及び使用人は、取締役会その他重要な会議への監査等委員の出席を通じて職務の執行状況を報告するほか、内部監査室は監査結果を監査等委員会へ報告する。
- (3) 当社グループの取締役及び使用人は、法令・定款等に違反する恐れのある事実、当社グループに著しい損害を与える恐れのある事実を発見したときは、直ちに監査等委員会に報告する。
- (4) 重要な決裁事項は、監査等委員会の閲覧に供する。

3．監査等委員会へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保する体制

- (1) 当社は、内部通報制度に基づく通報又はその他に関し監査等委員会に報告したことを理由として、報告した者に不利な取扱いを行わない。

4．監査等委員の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

- (1) 当社は、監査等委員の職務の執行について生ずる費用等を支弁するため、毎年、予算を計上する。
- (2) 監査等委員が職務の執行のために、費用の前払等の請求をしたときは、担当部門において審議の上、職務の執行に必要なないと認められた場合を除き、速やかに当該費用又は債務を処理する。

5．その他監査等委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (1) 監査等委員は、取締役会その他重要な会議に出席する。
- (2) 取締役（監査等委員である取締役を除く。）及び内部監査室等は、監査等委員会の求めに応じ、それぞれ定期的及び随時に監査等委員と意見交換を実施する。
- (3) 監査等委員は、月1回定期的に監査等委員会を開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、監査実施状況について情報交換及び協議を行うとともに、会計監査人から定期的に会計監査に関する報告を受け、意見交換を行う。

6．取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (1) 当社は、「企業倫理憲章」及び「行動規範」を制定し、これらの徹底と実践的運用を行うために必要な教育・研修を実施し、法令遵守及び企業倫理の徹底に取り組む。
- (2) 当社は、「内部通報規程」を制定し、法令、企業倫理、定款及び諸規程等に違反する行為を未然防止するとともに、早期に是正する体制を整備する。
- (3) 当社は、役職員の職務執行の適切性を確保するため、内部監査室を設置し、「内部監査規程」に基づき、内部監査を実施する。また、内部監査室は監査等委員会の監査業務を補助するほか、必要に応じて監査法人と情報交換し、効率的な内部監査を実施する。

7. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- (1) 取締役会議事録、経営会議議事録、その他重要な書類等の取締役の職務の執行に係る情報の取扱いは当社における「文書管理規程」に従い、所管部門が保存・管理する。
- (2) 所管部門は、取締役から文書閲覧を求められた際には、速やかに対応する。

8. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 当社は、「リスク管理規程」を制定し、経営活動に潜在するリスクを特定し、平常時からリスクの低減及び危機の未然防止に努める。
- (2) 当社は、大規模な災害、不祥事等が発生した場合、必要な人員で構成する緊急事態対策本部を設置する等、危機対応のためのマニュアル及び体制を整備する。

9. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1) 当社は、取締役会を定例で毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時開催し、経営に関する重要事項について審議・決定を行うとともに、経営効率の向上及び意思決定のスピードアップを図るため、取締役及び部長職により構成される経営会議を原則として毎月1回開催し、職務執行に関する重要事項について協議を行う。
- (2) 当社は、決裁項目ごとの決裁方法、決裁機関、決裁者を定めた「職務権限規程」を制定するとともに、各組織の業務分掌を定めた「業務分掌規程」を制定し、業務執行を明確にする。
- (3) 取締役会は、単年度及び3か年の経営計画を定め、達成すべき目標を明確にして、定期的に進捗を確認し、必要な対策や見直しを行う。

10. 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (1) 当社は、「企業倫理憲章」「行動規範」「コンプライアンス規程」を制定し使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制を整備する。
- (2) 当社は、全従業員を対象に定期的にコンプライアンス教育を実施し、コンプライアンスを重視する企業風土の醸成に努める。

11. 企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (1) 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制
「子会社管理規程」に基づき、当社担当部門は、子会社から速やかに又は定期的に取締役の職務の執行に係る報告を受け、これを取締役会へ報告する。
- (2) 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
当社は、「子会社管理規程」を準用し、子会社の損失の危険を把握するとともに、損失の危険が発生した場合は、子会社と連携し適切に対処する。
- (3) 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
当社グループの経営の健全性及び業務の適正性の確保のため、子会社の事業運営に係る重要な事項について予め当社担当部門が審査し、必要に応じ当社の取締役会へ付議する。
当社は、必要に応じ、子会社へ取締役及び監査役を派遣し、子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われるための支援を行う。
- (4) 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
当社の経営理念である「よるこんでもらえる喜び」を共通の理念とし、子会社の取締役、従業員等一人ひとりが、「企業倫理憲章」「行動規範」の遵守に努め、企業市民としての自覚をもとに、事業活動を展開するよう、指導、支援を行う。
当社の内部監査室は、必要に応じ子会社の内部監査を実施する。

12. 財務報告の信頼性を確保するための体制

- (1) 当社は、財務報告の信頼性を確保するため、金融商品取引法に基づき、財務報告に係る内部統制の整備並びにその運用を推進する。

13. 反社会的勢力への対応

- (1) 当社は、「反社会的勢力対策規程」を制定し、不当要求防止責任者を設置し、反社会的勢力等との関係を遮断し、一切の利益供与を行わない。
- (2) 当社は、「静岡県企業防衛対策協議会」に加盟し、指導を受けるとともに情報の収集を行い、反社会的勢力から不当な要求を受けた場合等は直ちに所轄警察署と連携し、これに対応する。

b. リスク管理体制の整備の状況

当社では、経営会議の中にリスク管理委員会を設置し、リスク情報の共有やリスク対応策の審議及び決定を行っております。同委員会の下、リスクの種類によりコンプライアンス部会など7部会が設置され、各部会固有のリスクの軽減、リスクの未然防止策の立案、実施、リスク発生時の迅速な対応を行っているほか、緊急性の高いリスクについては、緊急事態対策規程に則り、緊急事態対策本部が設けられ、迅速かつ的確に問題解決が図られる体制が整えられております。

二. 責任限定契約の内容の概要

当社と取締役（業務執行取締役等である者を除く）は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該非業務執行取締役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限ります。

内部監査及び監査等委員会監査の状況

イ. 内部監査

当社の内部監査は、社長直轄の内部監査室を設置し、専従者2名体制で実施しております。内部監査室は事業年度毎に内部監査計画書を作成し、各部門の業務活動全般に関し、業務分掌、職務権限、社内諸規程やコンプライアンス等の観点から適正かつ効率的に行われているかを監査しております。

ロ. 監査等委員会監査

監査等委員は、取締役会や経営会議等の重要な会議に出席しているほか、重要書類の閲覧、内部監査室や各部門長とのヒアリング等を通じ、業務執行状況や会計処理に関する監査を行っております。また、選定監査等委員及び内部監査室は、定期的に会計監査人と三者によるミーティングを行うとともに、内部統制システムの主管部門であるコーポレート部と意見交換を行い、相互の連携を深め、監査の実効性及び効率性の向上を図っております。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、早稲田宏、酒井博康であり、有限責任監査法人トーマツに所属しております。継続監査年数につきましては全員7年以内であるため、記載を省略しております。また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、その他5名であります。

社外取締役

当社の社外取締役は3名であり、うち2名は監査等委員であります。

社外取締役三好宏明は、他社の代表取締役としての豊富な企業経営の経験をもとに、当社の業務執行に対する客観的かつ適切な提言や監督を期待できると判断し、社外取締役として選任しております。また、同氏と当社との間に人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外取締役（監査等委員）小松原康久は、金融機関における長年の経験と幅広い見識を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。また、同氏は当社株式5,000株を保有している他は、当社との間に人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外取締役（監査等委員）酒井由香里は、上場審査経験等に基づく財務・会計の知識を含む豊富な金融関連知識とともに、他社の取締役や監査役としての豊富な経営経験、監査業務の経験を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。また、同氏と当社との間に人的関係、資本的关系、取引関係及びその他の利害関係はありません。

三好宏明と酒井由香里の両氏は、当社の一般株主との利益相反が生じるおそれはないと判断し、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として、同取引所に届け出ております。

当社では、社外取締役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、その選任に際しては、経歴を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを個別に判断しております。

役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストックオ プション	賞与	退職慰労金	
取締役(監査等委員を除く。) (社外取締役を除く。)	137,595	122,190	-	15,405	-	6
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く。)	10,800	10,800	-	-	-	1
社外役員	10,800	10,800	-	-	-	4

- (注) 1. 取締役の報酬額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
 2. 取締役(監査等委員を除く。)の報酬限度額は、平成28年10月27日開催の第33期定時株主総会において、年額250百万円以内(使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない)と決議されております。
 3. 取締役(監査等委員)の報酬限度額は、平成28年10月27日開催の第33期定時株主総会において、年額60百万円以内と決議されております。
 4. 上記の報酬等の額には、平成30年10月25日開催の第35期定時株主総会において決議された当事業年度の取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。)6名に対する役員賞与15百万円が含まれております。

ロ. 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等
 該当事項はありません。

ハ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法
 役員の報酬等は、株主総会において決議された報酬総額の限度内で、取締役(監査等委員である取締役を除く。)は取締役会において、監査等委員である取締役は監査等委員である取締役の協議において決定しております。

株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
 銘柄数 3銘柄
 貸借対照表計上額の合計額 34,590千円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
 前事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株式会社静岡銀行	20,000	19,700	取引関係の維持強化

当事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株式会社静岡銀行	20,000	20,640	取引関係の維持強化

ハ. 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額
 該当事項はありません。

取締役の定数

当社は、取締役（監査等委員である取締役を除く）を7名以内、監査等委員である取締役を4名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、監査等委員である取締役とそれ以外の取締役とを区別して、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、取締役会の決議によって毎年1月31日を基準日として、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）をすることができる旨を、定款に定めております。

自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、市場取引等により自己の株式を取得することを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	21,500	-	21,500	-
連結子会社	-	-	-	-
計	21,500	-	21,500	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査公認会計士等の監査計画、監査内容、監査日程等を十分に勘案したうえで、監査等委員会の同意を得て決定する旨を定款に定めております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年8月1日から平成30年7月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年8月1日から平成30年7月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、同法人やその他専門的な情報を有する団体等が主催する研修・セミナーへの参加等を行っております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当連結会計年度 (平成30年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,747,933	1,833,012
受取手形及び売掛金	719,194	691,851
有価証券	-	28,000
商品及び製品	482,552	453,744
仕掛品	38,321	54,658
原材料及び貯蔵品	123,160	131,160
繰延税金資産	47,461	87,548
その他	61,007	70,725
貸倒引当金	13,768	11,574
流動資産合計	3,205,863	3,339,127
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	713,814	773,348
減価償却累計額	295,412	324,096
建物及び構築物(純額)	418,402	449,252
土地	1,035,700	1,469,435
その他	176,445	182,686
減価償却累計額	133,023	144,959
その他(純額)	43,421	37,727
有形固定資産合計	1,497,525	1,956,415
無形固定資産		
のれん	6,652	-
その他	59,444	58,505
無形固定資産合計	66,096	58,505
投資その他の資産		
投資有価証券	211,956	240,085
保険積立金	430,226	423,960
その他	22,345	31,373
貸倒引当金	3,379	11,106
投資その他の資産合計	661,148	684,313
固定資産合計	2,224,770	2,699,234
資産合計	5,430,634	6,038,361

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当連結会計年度 (平成30年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	167,855	181,089
1年内返済予定の長期借入金	99,996	195,996
未払金	245,088	254,574
未払法人税等	54,631	18,818
賞与引当金	51,627	34,690
役員賞与引当金	9,220	15,405
ポイント引当金	11,772	-
その他	116,876	105,298
流動負債合計	757,066	805,871
固定負債		
長期借入金	200,012	468,016
繰延税金負債	31,077	32,353
退職給付に係る負債	58,734	65,586
その他	196,656	196,489
固定負債合計	486,480	762,444
負債合計	1,243,546	1,568,315
純資産の部		
株主資本		
資本金	356,625	356,625
資本剰余金	326,625	326,625
利益剰余金	3,492,944	3,771,584
自己株式	102	102
株主資本合計	4,176,091	4,454,732
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,974	15,266
為替換算調整勘定	979	47
その他の包括利益累計額合計	10,995	15,313
純資産合計	4,187,087	4,470,045
負債純資産合計	5,430,634	6,038,361

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日)
売上高	7,320,812	7,289,410
売上原価	2,529,345	2,637,150
売上総利益	4,791,467	4,652,259
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	1,726,713	1,632,347
荷造運搬費	646,937	622,967
貸倒引当金繰入額	9,414	16,480
役員報酬	179,070	185,190
給料及び手当	542,920	586,945
賞与引当金繰入額	50,755	34,316
役員賞与引当金繰入額	9,220	15,405
退職給付費用	27,101	27,886
その他	1,117,658	1,072,487
販売費及び一般管理費合計	4,309,790	4,194,026
営業利益	481,677	458,233
営業外収益		
受取利息	1,698	1,330
受取配当金	614	604
デリバティブ評価益	46,402	13,863
償却債権取立益	120	6,027
その他	28,153	13,782
営業外収益合計	76,989	35,609
営業外費用		
支払利息	574	663
上場関連費用	7,500	-
行政処分対応費	-	18,218
その他	3,887	4,740
営業外費用合計	11,961	23,622
経常利益	546,705	470,220
特別利益		
固定資産売却益	113	-
補助金収入	295,512	-
保険解約返戻金	-	852
受取保険金	3,000	-
特別利益合計	98,525	852
特別損失		
固定資産除却損	310,492	3329
特別損失合計	10,492	329
税金等調整前当期純利益	634,738	470,743
法人税、住民税及び事業税	155,721	87,610
法人税等調整額	20,408	40,003
法人税等合計	176,130	47,607
当期純利益	458,607	423,136
親会社株主に帰属する当期純利益	458,607	423,136

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日)
当期純利益	458,607	423,136
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,943	3,291
為替換算調整勘定	979	1,026
その他の包括利益合計	8,964	4,318
包括利益	467,571	427,454
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	467,571	427,454
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年 8月 1日 至 平成29年 7月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	356,625	326,625	3,225,584	34	3,908,799
当期変動額					
剰余金の配当			191,247		191,247
自己株式の取得				67	67
親会社株主に帰属する当期純利益			458,607		458,607
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	267,360	67	267,292
当期末残高	356,625	326,625	3,492,944	102	4,176,091

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	2,031	-	2,031	3,910,830
当期変動額				
剰余金の配当				191,247
自己株式の取得				67
親会社株主に帰属する当期純利益				458,607
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9,943	979	8,964	8,964
当期変動額合計	9,943	979	8,964	276,256
当期末残高	11,974	979	10,995	4,187,087

当連結会計年度（自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	356,625	326,625	3,492,944	102	4,176,091
当期変動額					
剰余金の配当			144,496		144,496
自己株式の取得					-
親会社株主に帰属する当期純利益			423,136		423,136
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	278,640	-	278,640
当期末残高	356,625	326,625	3,771,584	102	4,454,732

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	11,974	979	10,995	4,187,087
当期変動額				
剰余金の配当				144,496
自己株式の取得				-
親会社株主に帰属する当期純利益				423,136
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,291	1,026	4,318	4,318
当期変動額合計	3,291	1,026	4,318	282,958
当期末残高	15,266	47	15,313	4,470,045

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 8月 1日 至 平成29年 7月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	634,738	470,743
減価償却費	61,423	62,739
のれん償却額	26,610	6,652
貸倒引当金の増減額（ は減少）	4,083	5,531
賞与引当金の増減額（ は減少）	2,743	16,937
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	13,310	6,185
ポイント引当金の増減額（ は減少）	955	11,772
退職給付に係る負債の増減額（ は減少）	5,166	6,852
受取利息	1,698	1,330
受取配当金	614	604
為替差損益（ は益）	4,096	1,631
保険配当金	234	53
支払利息	574	663
投資有価証券評価損益（ は益）	7,907	2,345
デリバティブ評価損益（ は益）	46,402	13,863
固定資産売却損益（ は益）	13	-
補助金収入	95,512	-
売上債権の増減額（ は増加）	104,115	27,382
仕入債務の増減額（ は減少）	10,475	13,202
たな卸資産の増減額（ は増加）	23,556	4,333
固定資産除却損	10,492	329
未払金の増減額（ は減少）	3,112	9,901
その他	21,283	14,319
小計	667,912	554,924
利息及び配当金の受取額	2,570	1,897
利息の支払額	598	759
補助金の受取額	95,512	-
法人税等の支払額	247,117	127,023
営業活動によるキャッシュ・フロー	518,278	429,039

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年 8月 1日 至 平成29年 7月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	21,600	21,600
定期預金の払戻による収入	21,100	21,600
有価証券の取得による支出	-	28,000
有形固定資産の取得による支出	31,515	503,229
有形固定資産の売却による収入	27	-
有形固定資産の除却による支出	399	-
無形固定資産の取得による支出	16,305	18,308
投資有価証券の取得による支出	56,600	41,300
投資有価証券の償還による収入	120,000	20,000
保険積立金の積立による支出	18,828	17,848
保険積立金の解約による収入	3,778	25,283
その他	1,711	218
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,368	563,184
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	-	480,000
長期借入金の返済による支出	108,329	115,996
配当金の支払額	191,247	144,496
自己株式の取得による支出	67	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	299,644	219,507
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,123	313
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	214,879	85,048
現金及び現金同等物の期首残高	1,518,988	1,733,867
現金及び現金同等物の期末残高	1,733,867	1,818,916

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 . 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結の対象としており、その内容は次のとおりであります。

連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

株式会社アベックス

株式会社ダイカイ

提來福股份有限公司

前連結会計年度において連結子会社でありましたコラムジャパン株式会社は、当連結会計年度において合併により消滅したため、連結の範囲から除いております。

2 . 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3 . 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4 . 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

1) 有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法 (定額法)

その他有価証券

・ 時価のあるもの

決算末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

なお、組込デリバティブを区分して測定することができない複合金融商品については、複合金融商品全体を時価評価し、評価差額を当連結会計年度の損益に計上しております。

・ 時価のないもの

移動平均法による原価法

2) デリバティブ

時価法

3) たな卸資産

商品、製品、原材料、仕掛品

主に先入先出法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

主に個別法による原価法及び最終仕入原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法、ただし平成10年4月1日以降に取得の建物 (建物附属設備を除く) 並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 12 ~ 38年

無形固定資産

定額法、なお、ソフトウェア (自社利用分) については、社内における利用可能期間 (5年) に基づく定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払いに備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支払いに備えるため、当連結会計年度に係る支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

(税効果会計に係る会計基準等の適用指針等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日改正 企業会計基準委員会)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日最終改正 企業会計基準委員会)

(1) 概要

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」等は、日本公認会計士協会における税効果会計に関する実務指針を企業会計基準委員会に移管するに際して、基本的にその内容を踏襲したうえで、必要と考えられる以下の見直しが行われたものです。

(会計処理の見直しを行った主な取扱い)

- ・個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱い
- ・(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱い

(2) 適用予定日

平成31年7月期の期首から適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用に関する影響

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」等の適用による連結財務諸表に与える影響額は、現時点で評価中です。

(収益認識に関する会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

平成34年7月期の期首から適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

前連結会計年度まで独立掲記して表示しておりました「受取賃貸料」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「受取賃貸料」に表示していた2,856千円は、「その他」として組替えております。

前連結会計年度まで独立掲記して表示しておりました「保険配当金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「保険配当金」に表示していた234千円は、「その他」として組替えております。

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「償却債権取立益」は金額的重要性が増したため、当連結会計年度より、独立掲記しております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた120千円は、「償却債権取立益」120千円、「その他」28,153千円として組替えております。

(連結貸借対照表関係)
 該当事項はありません。

(連結損益計算書関係)

1 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 8月 1日 至 平成29年 7月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月31日)
車両運搬具	13千円	- 千円
計	13	-

2 補助金収入

前連結会計年度(自 平成28年 8月 1日 至 平成29年 7月31日)
 物流センター取得に係る袋井市産業立地事業費補助金であります。

3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 8月 1日 至 平成29年 7月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月31日)
建物附属設備	8,340千円	- 千円
工具、器具及び備品	1,599	-
無形固定資産	552	329
計	10,492	329

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年 8月 1日 至 平成29年 7月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	12,918千円	4,483千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	12,918	4,483
税効果額	2,975	1,192
その他有価証券評価差額金	9,943	3,291
為替換算調整勘定：		
当期発生額	979	1,026
その他の包括利益合計	8,964	4,318

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年 8月 1日 至 平成29年 7月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	4,250,000	-	-	4,250,000
合計	4,250,000	-	-	4,250,000
自己株式				
普通株式 (注)	57	39	-	96
合計	57	39	-	96

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加39株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年10月27日 定時株主総会	普通株式	118,998	28	平成28年 7月31日	平成28年10月28日
平成29年 3月 3日 取締役会	普通株式	72,249	17	平成29年 1月31日	平成29年 4月 7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年10月25日 定時株主総会	普通株式	72,248	利益剰余金	17	平成29年 7月31日	平成29年10月26日

当連結会計年度（自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度増加 株式数（株）	当連結会計年度減少 株式数（株）	当連結会計年度末株 式数（株）
発行済株式				
普通株式	4,250,000	-	-	4,250,000
合計	4,250,000	-	-	4,250,000
自己株式				
普通株式	96	-	-	96
合計	96	-	-	96

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成29年10月25日 定時株主総会	普通株式	72,248	17	平成29年 7月31日	平成29年10月26日
平成30年 3月 5日 取締役会	普通株式	72,248	17	平成30年 1月31日	平成30年 4月 9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成30年10月25日 定時株主総会	普通株式	72,248	利益剰余金	17	平成30年 7月31日	平成30年10月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成28年 8月 1日 至 平成29年 7月 31日)	(自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月 31日)
現金及び預金勘定	1,747,933千円	1,833,012千円
預入期間が3か月を超える定期預金	14,100	14,100
預け金	34	4
現金及び現金同等物	1,733,867	1,818,916

(リース取引関係)

(貸主側)

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年 7月 31日)	当連結会計年度 (平成30年 7月 31日)
1年内	44,400	104,400
1年超	51,800	17,400
合計	96,200	121,800

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

設備投資資金及び短期的な運転資金について、当社は、自己資金や銀行からの借入により確保しており、連結子会社は、主に当社からの借入により確保しております。一時的な余剰資金については、安全性の高い金融資産で運用し、また、デリバティブについては、後述するリスクを回避するために利用することとしており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券は、主にその他有価証券である証券投資信託受益証券、上場株式及び債券であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金、未払金、未払法人税等は1年以内の支払期日であります。

借入金は、設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、返済期間は最長で決算日後5年でありませ

ず。なお、一部の連結子会社が、外貨建ての営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的として、デリバティブ取引(オプション取引及び金利スワップ取引)を利用しており、発行会社の信用リスクのほか、取引によっては為替相場等の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(顧客の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権である受取手形及び売掛金は、販売管理規程に従い、与信管理基準を策定するとともに、顧客ごとの期日管理及び残高管理を行い、また、問題債権については個別対応を行うなど売掛金管理に関する体制を整備し運営しております。

満期保有目的及びその他有価証券である債券は、格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引については、取引相手を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

市場リスクの管理

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、財務状況や市況等を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた管理規程に従い、担当部署が決裁担当者の承認を得て行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

各部署からの報告に基づき担当部門が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持等により流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成29年7月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,747,933	1,747,933	-
(2) 受取手形及び売掛金	719,194	719,194	-
(4) 投資有価証券	198,006	198,006	-
資産計	2,665,134	2,665,134	-
(1) 買掛金	167,855	167,855	-
(2) 1年内返済予定の長期借入金	99,996	91,799	8,196
(3) 未払金	245,088	245,088	-
(4) 未払法人税等	54,631	54,631	-
(5) 長期借入金	200,012	198,456	1,555
負債計	767,583	757,831	9,752
デリバティブ取引(*1)	(30,613)	(30,613)	-

(*1) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

当連結会計年度（平成30年7月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,833,012	1,833,012	-
(2) 受取手形及び売掛金	691,851	691,851	-
(3) 有価証券	28,000	28,000	-
(4) 投資有価証券	226,135	226,135	-
資産計	2,778,998	2,778,998	-
(1) 買掛金	181,089	181,089	-
(2) 1年内返済予定の長期借入金	195,996	196,927	931
(3) 未払金	254,574	254,574	-
(4) 未払法人税等	18,818	18,818	-
(5) 長期借入金	468,016	466,484	1,531
負債計	1,118,493	1,117,893	600
デリバティブ取引(*1)	(16,749)	(16,749)	-

(*1) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券、(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、証券投資信託受益証券及び債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 買掛金、(3) 未払金、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 1年内返済予定の長期借入金、(5) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当連結会計年度 (平成30年7月31日)
非上場株式	13,950	13,950

非上場株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
 前連結会計年度（平成29年7月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,747,933	-	-	-
受取手形及び売掛金	719,194	-	-	-
投資有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	-	27,587	-	-
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 債券(社債)	-	-	53,451	-
(2) 債券(その他)	18,744	37,488	-	-
合計	2,485,872	65,075	53,451	-

当連結会計年度（平成30年7月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,833,012	-	-	-
受取手形及び売掛金	691,851	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	28,000	27,752	-	-
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 債券(社債)	-	28,022	64,127	-
(2) 債券(その他)	19,206	19,206	-	-
合計	2,572,069	74,980	64,127	-

4. 長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
 前連結会計年度(平成29年7月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
1年内返済予定の長期借入金	99,996	-	-	-	-	-
長期借入金	-	99,996	100,016	-	-	-
合計	99,996	99,996	100,016	-	-	-

当連結会計年度(平成30年7月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
1年内返済予定の長期借入金	195,996	-	-	-	-	-
長期借入金	-	196,016	88,000	96,000	88,000	-
合計	195,996	196,016	88,000	96,000	88,000	-

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成29年7月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	27,587	26,704	882
	(3) その他	-	-	-
	小計	27,587	26,704	882
合計		27,587	26,704	882

当連結会計年度(平成30年7月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	55,752	54,435	1,316
	(3) その他	-	-	-
	小計	55,752	54,435	1,316
合計		55,752	54,435	1,316

2. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年7月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	20,679	14,923	5,756
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	93,507	83,805	9,701
	小計	114,186	98,729	15,457
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	56,232	60,000	3,768
	(3) その他	-	-	-
	小計	56,232	60,000	3,768
合計		170,418	158,729	11,689

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 13,950千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成30年7月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	21,639	14,923	6,715
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	92,149	91,000	1,149
	その他	-	-	-
	(3) その他	46,182	34,105	12,076
	小計	159,970	140,029	19,941
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	38,412	40,000	1,588
	(3) その他	-	-	-
	小計	38,412	40,000	1,588
合計		198,382	180,029	18,353

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 13,950千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	100,000	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	100,000	-	-

当連結会計年度（自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日）

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 複合金融商品関連

前連結会計年度(平成29年7月31日)

組込デリバティブを区分して測定できない複合金融商品については、全体を時価評価し、「注記事項(有価証券関係)」に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成30年7月31日)

組込デリバティブを区分して測定できない複合金融商品については、全体を時価評価し、「注記事項(有価証券関係)」に含めて記載しております。

(2) 通貨関連

前連結会計年度(平成29年7月31日)

区分	取引の種類等	契約額等 (千円)	契約額等のうち 一年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引 以外の取引	通貨オプション取引 買建				
	米ドルコール円プット	109,567	78,262	5,977	1,134
	売建 円コール米ドルプット	257,775	184,125	23,153	27,124
合計		367,342	262,387	17,175	28,258

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年7月31日)

区分	取引の種類等	契約額等 (千円)	契約額等のうち 一年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引 以外の取引	通貨オプション取引 買建				
	米ドルコール円プット	78,262	46,957	4,016	1,960
	売建 円コール米ドルプット	184,125	110,475	13,209	9,943
合計		262,387	157,432	9,192	7,983

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格に基づき算定しております。

(3) 金利関連

前連結会計年度(平成29年7月31日)

区分	取引の種類等	契約額等 (千円)	契約額等のうち 一年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引 以外の取引	クーポンスワップ取引 受取米ドル・支払円	460,312	460,312	13,437	18,143
合計		460,312	460,312	13,437	18,143

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年7月31日)

区分	取引の種類等	契約額等 (千円)	契約額等のうち 一年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引 以外の取引	クーポンスワップ取引 受取米ドル・支払円	460,312	460,312	7,557	5,879
合計		460,312	460,312	7,557	5,879

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自平成28年8月1日至平成29年7月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社の退職金の給付は、退職金規程に基づく退職一時金制度及び確定拠出年金法に基づく確定拠出年金制度を採用しております。

連結子会社の退職金の給付は、勤労者退職金共済機構・中小企業退職金共済事業本部又は名古屋市中小企業共済会との間で締結した退職金共済契約による退職給付制度及び確定拠出年金法に基づく確定拠出年金制度を採用しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	53,568千円
退職給付費用	9,016
退職給付の支払額	3,850
退職給付に係る負債の期末残高	58,734

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

非積立型制度の退職給付債務	58,734千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	58,734
退職給付に係る負債	58,734千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	58,734

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	9,016千円
臨時に支払った割増退職金	-

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、18,252千円であります。

当連結会計年度（自 平成29年 8月 1日 至 平成30年 7月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社の退職金の給付は、退職金規程に基づく退職一時金制度及び確定拠出年金法に基づく確定拠出年金制度を採用しております。

連結子会社の退職金の給付は、勤労者退職金共済機構・中小企業退職金共済事業本部又は名古屋市中小企業共済会との間で締結した退職金共済契約による退職給付制度及び確定拠出年金法に基づく確定拠出年金制度を採用しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	58,734千円
退職給付費用	8,710
退職給付の支払額	1,858
退職給付に係る負債の期末残高	65,586

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

非積立型制度の退職給付債務	65,586千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	65,586

退職給付に係る負債	65,586千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	65,586

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	8,710千円
臨時に支払った割増退職金	-

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、19,548千円であります。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当連結会計年度 (平成30年7月31日)
<流動の部>		
繰延税金資産		
たな卸資産評価損	19,418千円	19,257千円
未払事業税	3,227	3,734
賞与引当金	16,152	11,052
ポイント引当金	3,556	-
繰越欠損金	-	42,842
その他	10,193	10,532
繰延税金資産小計	52,548	87,419
評価性引当額	5,086	129
繰延税金資産合計	47,461	87,548
繰延税金資産の純額	47,461	87,548
<固定の部>		
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	17,614千円	19,669千円
長期未払金	57,881	57,612
投資有価証券評価損	4,040	2,748
税務上の繰越欠損金	184,109	-
その他	4,500	2,679
繰延税金資産小計	268,145	82,708
評価性引当額	267,396	82,042
繰延税金資産合計	749	666
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	3,482	4,675
固定資産圧縮積立金	28,344	28,344
繰延税金負債合計	31,826	33,019
繰延税金資産の純額	-	-
繰延税金負債の純額	31,077	32,353

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当連結会計年度 (平成30年7月31日)
法定実効税率	30.2%	30.2%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5	1.9
評価性引当額の増減額	2.0	5.6
住民税均等割	0.2	0.3
法人税額の特別控除額	1.3	-
のれん償却額	1.3	0.4
コラムジャパンの合併に伴う処理項目	-	27.5
連結子会社税率差異	0.2	3.4
関係会社株式取得関連費用	-	1.1
その他	1.0	1.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.7	10.1

(企業結合等関係)
 (共通支配下の取引)

(1) 取引の概要

結合当事企業の名称及び事業の内容

結合当事企業の名称 コラムジャパン株式会社

事業の内容 輸入雑貨等の卸売

企業結合日

平成29年8月1日

企業結合の法的形式

当社を吸収合併存続会社、コラムジャパン株式会社を吸収合併消滅会社とする吸収合併

結合後企業の名称

ティーライフ株式会社

その他取引の概要に関する事項

コラムジャパン株式会社は、主として輸入雑貨等の卸売事業を行っていましたが、さらなる経営資源の有効活用、事業運営の効率化を目的に、同社を吸収合併することといたしました。

(2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

当社では、静岡県において、賃貸用の物流倉庫(土地を含む。)を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は54,358千円(賃貸収益は売上高に、賃貸費用は売上原価に計上)であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は85,112千円(賃貸収益は売上高に、賃貸費用は売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	268,541	328,046
期中増減額	59,504	499,144
期末残高	328,046	827,190
期末時価	328,046	1,267,148

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の増加額は賃貸対象資産の増加(67,086千円)によるものであり、減少額は減価償却(7,582千円)であります。当連結会計年度の増加額は賃貸対象資産の増加(509,802千円)によるものであり、減少額は減価償却(10,657千円)であります。

3. 前連結会計年度末の時価は、路線価等による市場価格に基づき、時価の変動が軽微であるため、貸借対照表計上額をもって時価としております。当連結会計年度末の時価は、路線価等による評価額に基づき、自社で算定した金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループでは、独立した経営単位である当社及び連結子会社が、当社グループの経営方針のもと、それぞれの事業における包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、当社並びに個々の連結子会社を最小単位とした事業セグメントから構成されており、また、経済的特徴及び商品・サービスの要素が概ね類似する複数の事業セグメントを集約し、「小売事業」、「卸売事業」及び「不動産賃貸事業」の3つを報告セグメントとしております。

「小売事業」では、主に健康茶、健康食品、化粧品を一般消費者に通信販売しております。

「卸売事業」では、主に生活雑貨、食品を通信販売会社や小売店等に販売しております。

「不動産賃貸事業」では、主に自社不動産を活用し、不動産賃貸を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	連結財務諸 表計上額 (注)2
	小売事業	卸売事業	不動産賃貸事業			
売上高						
外部顧客への売上高	5,390,990	1,864,581	65,241	7,320,812	-	7,320,812
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,187	18,218	4,560	32,966	32,966	-
計	5,401,177	1,882,800	69,801	7,353,779	32,966	7,320,812
セグメント利益	414,587	9,567	54,358	478,512	3,164	481,677
セグメント資産	3,680,421	805,898	340,885	4,827,205	603,428	5,430,634
その他の項目						
減価償却費	47,534	5,820	8,068	61,423	-	61,423
のれんの償却額	-	26,610	-	26,610	-	26,610
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	43,929	11,916	67,086	122,932	66,184	56,747
のれんの未償却残高	-	6,652	-	6,652	-	6,652

(注)1. セグメント利益の調整額3,164千円は、セグメント間取引消去等であります。セグメント資産の調整額603,428千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、報告セグメントに帰属しない余資運用資金(定期預金、有価証券)、長期投資資金(投資有価証券、保険積立金)に係る資産等であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	連結財務諸 表計上額 (注)2
	小売事業	卸売事業	不動産賃貸事業			
売上高						
外部顧客への売上高	5,171,693	2,012,547	105,168	7,289,410	-	7,289,410
セグメント間の内部 売上高又は振替高	48	239	-	191	191	-
計	5,171,742	2,012,308	105,168	7,289,218	191	7,289,410
セグメント利益	356,604	28,881	85,112	470,598	12,365	458,233
セグメント資産	3,591,532	908,229	841,037	5,340,799	697,562	6,038,361
その他の項目						
減価償却費	47,368	4,713	10,657	62,739	-	62,739
のれんの償却額	-	6,652	-	6,652	-	6,652
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	19,449	1,192	510,809	531,451	3,620	527,831
のれんの未償却残高	-	-	-	-	-	-

(注)1.セグメント利益の調整額 12,365千円は、セグメント間取引消去等であります。セグメント資産の調整額 697,562千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、報告セグメントに帰属しない余資運用資金(定期預金、有価証券)、長期投資資金(投資有価証券、保険積立金)に係る資産等であります。

2.セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日)

1.製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2.地域ごとの情報

(1)売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2)有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3.主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日)

1.製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

(開示対象特別目的会社関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日)
1株当たり純資産額	985円21銭	1,051円79銭
1株当たり当期純利益金額	107円90銭	99円56銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	458,607	423,136
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	458,607	423,136
期中平均株式数(千株)	4,249	4,249

(重要な後発事象)

(取得による企業結合)

当社は、平成30年7月12日開催の取締役会において、株式会社Lifeit(以下「Lifeit社」)の全株式を取得して子会社化(当社の連結子会社)することについて決議し、同日付けで株式譲渡に関する契約を締結し、平成30年8月1日付けでLifeit社の全株式を取得しました。

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社Lifeit

事業の内容 家具、雑貨等の通信販売

企業結合を行った主な理由

Lifeit社は、小売事業として複数のセレクトショップ通信販売サイトを運営しております。

同社は当社と事業形態が合致していることから、両社の経営資源を活用し、相互の顧客に向けたサービスの提供及び取扱い商品の補充拡充や、プラットフォームの共有化による事業運営の効率化等のシナジー効果を追及することで、更なる事業拡大を図るためであります。

企業結合日

平成30年8月1日

企業結合の法的形式

株式取得

結合後企業の名称

変更ありません。

取得した議決権比率

100%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

当事者間の合意により非開示とさせていただきます。

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

デューデリジェンス費用等 17,450千円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定していません。

(5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定していません。

(重要な子会社等の設立)

当社は、平成30年9月14日開催の取締役会において、以下のとおり中国の上海市に子会社を設立することを決議しております。

(1) 設立の目的

当社は、中長期的な成長戦略である海外展開の一環として、今後更なる成長が見込まれる中国市場における事業拡大を目的として、上海市に子会社を設立することいたしました。

(2) 設立する子会社の概要

名称 特萊芙(上海)貿易有限公司(予定)

所在地 中華人民共和国 上海市

代表者 董事長 草間 崇

事業内容 健康茶・健康食品・化粧品等の通信販売

資本金 3百萬元(約51百萬元)

設立年月日 平成30年10月(予定)

出資比率 ティーライフ株式会社 100%

決算期 12月31日

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	99,996	195,996	0.2	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	200,012	468,016	0.2	平成32年～平成35年
合計	300,008	664,012	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	196,016	88,000	96,000	88,000

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	1,835,165	3,773,932	5,595,679	7,289,410
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	48,502	152,143	236,836	470,743
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額(千円)	154,106	225,311	278,279	423,136
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	36.26	53.01	65.47	99.56

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	36.26	16.75	12.46	34.08

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年7月31日)	当事業年度 (平成30年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,587,688	1,716,150
売掛金	517,615	487,082
有価証券	-	28,000
商品及び製品	176,833	175,753
仕掛品	38,321	54,658
原材料及び貯蔵品	122,711	130,968
前払費用	14,061	19,765
繰延税金資産	28,029	62,502
その他	159,185	130,417
貸倒引当金	20,624	67,859
流動資産合計	2,623,821	2,737,439
固定資産		
有形固定資産		
建物	367,134	398,918
構築物	13,383	11,645
機械及び装置	14,739	11,789
車両運搬具	1,381	921
工具、器具及び備品	25,772	19,878
土地	1,035,700	1,469,435
建設仮勘定	-	4,100
有形固定資産合計	1,458,110	1,916,689
無形固定資産		
ソフトウェア	49,071	37,004
その他	7,445	19,293
無形固定資産合計	56,516	56,297
投資その他の資産		
投資有価証券	114,689	154,491
関係会社株式	627,794	608,412
その他	422,127	416,704
投資その他の資産合計	1,164,611	1,179,608
固定資産合計	2,679,239	3,152,595
資産合計	5,303,060	5,890,034

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年7月31日)	当事業年度 (平成30年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	86,631	67,926
1年内返済予定の長期借入金	99,996	195,996
未払金	196,757	227,441
未払費用	6,828	4,634
未払法人税等	45,700	8,800
前受金	20,319	25,515
預り金	14,510	14,998
前受収益	4,758	11,947
賞与引当金	38,727	20,790
役員賞与引当金	9,220	15,405
ポイント引当金	11,772	-
その他	22,717	19,476
流動負債合計	557,938	612,930
固定負債		
長期借入金	200,012	468,016
繰延税金負債	28,080	28,304
退職給付引当金	58,734	65,586
その他	188,790	188,623
固定負債合計	475,616	750,529
負債合計	1,033,555	1,363,460
純資産の部		
株主資本		
資本金	356,625	356,625
資本剰余金		
資本準備金	326,625	326,625
資本剰余金合計	326,625	326,625
利益剰余金		
利益準備金	1,650	1,650
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	66,167	66,167
別途積立金	2,511,000	2,611,000
繰越利益剰余金	1,001,924	1,157,566
利益剰余金合計	3,580,742	3,836,384
自己株式	102	102
株主資本合計	4,263,890	4,519,531
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,615	7,042
評価・換算差額等合計	5,615	7,042
純資産合計	4,269,505	4,526,574
負債純資産合計	5,303,060	5,890,034

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日)	当事業年度 (自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日)
売上高	1 5,455,071	1 5,328,978
売上原価	1 1,324,777	1 1,376,116
売上総利益	4,130,293	3,952,861
販売費及び一般管理費	1, 2 3,643,740	1, 2 3,443,768
営業利益	486,553	509,093
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1 1,487	1 909
償却債権取立益	120	6,027
その他	1 15,097	1 17,237
営業外収益合計	16,705	24,174
営業外費用		
支払利息	354	468
行政処分対応費	-	18,218
その他	16,980	1,253
営業外費用合計	17,334	19,940
経常利益	485,924	513,327
特別利益		
保険解約返戻金	-	852
補助金収入	95,512	-
受取保険金	3,000	-
特別利益合計	98,512	852
特別損失		
固定資産除却損	573	329
関係会社株式評価損	18,638	19,382
貸倒引当金繰入額	-	58,319
特別損失合計	19,211	78,030
税引前当期純利益	565,224	436,149
法人税、住民税及び事業税	141,383	70,469
法人税等調整額	30,194	34,459
法人税等合計	171,577	36,010
当期純利益	393,646	400,138

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日）

（単位：千円）

	株主資本								自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				利益剰余金合計		
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金						
				固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	356,625	326,625	1,650	-	2,411,000	965,693	3,378,343	34	4,061,558	
当期変動額										
剰余金の配当						191,247	191,247		191,247	
当期純利益						393,646	393,646		393,646	
固定資産圧縮積立金の積立				66,167		66,167	-		-	
別途積立金の積立					100,000	100,000	-		-	
自己株式の取得								67	67	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	-	66,167	100,000	36,231	202,399	67	202,331	
当期末残高	356,625	326,625	1,650	66,167	2,511,000	1,001,924	3,580,742	102	4,263,890	

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	1,374	4,062,933
当期変動額		
剰余金の配当		191,247
当期純利益		393,646
固定資産圧縮積立金の積立		-
別途積立金の積立		-
自己株式の取得		67
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4,240	4,240
当期変動額合計	4,240	206,571
当期末残高	5,615	4,269,505

当事業年度（自 平成29年8月1日 至 平成30年7月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
				固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	356,625	326,625	1,650	66,167	2,511,000	1,001,924	3,580,742	102	4,263,890
当期変動額									
剰余金の配当						144,496	144,496		144,496
当期純利益						400,138	400,138		400,138
固定資産圧縮積立金の積立									-
別途積立金の積立					100,000	100,000	-		-
自己株式の取得									-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	100,000	155,641	255,641	-	255,641
当期末残高	356,625	326,625	1,650	66,167	2,611,000	1,157,566	3,836,384	102	4,519,531

	評価・換算差額等	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	
当期首残高	5,615	4,269,505
当期変動額		
剰余金の配当		144,496
当期純利益		400,138
固定資産圧縮積立金の積立		-
別途積立金の積立		-
自己株式の取得		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,426	1,426
当期変動額合計	1,426	257,068
当期末残高	7,042	4,526,574

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1．資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券 償却原価法 (定額法)

その他有価証券

・ 時価のあるもの 決算末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

・ 時価のないもの 移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品、製品、原材料、仕掛品 先入先出法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品 個別法による原価法及び最終仕入原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2．固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産 定率法

ただし平成10年4月1日以降に取得の建物 (建物附属設備を除く) 並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は定額法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 12～38年

(2) 無形固定資産 定額法

なお、ソフトウェア (自社利用分) については、社内における利用可能期間 (5年) に基づく定額法

3．引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払いに備えるため、支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支払いに備えるため、当事業年度に係る支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

4．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めて表示しておりました「償却債権取立益」は金額的重要性が増したため、当事業年度より、独立掲記しております。

この結果、前事業年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた120千円は、「償却債権取立益」120千円、「その他」15,097千円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (平成29年7月31日)	当事業年度 (平成30年7月31日)
短期金銭債権	142,782千円	105,422千円
短期金銭債務	297	14

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自平成28年8月1日 至平成29年7月31日)	当事業年度 (自平成29年8月1日 至平成30年7月31日)
営業取引による取引高	63,200千円	65,905千円
営業取引以外の取引による取引高	2,722	9,320

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

	前事業年度 (自平成28年8月1日 至平成29年7月31日)	当事業年度 (自平成29年8月1日 至平成30年7月31日)
広告宣伝費	1,677,000千円	1,490,962千円
荷造運搬費	517,346	487,295
貸倒引当金繰入額	11,471	8,337
給料及び手当	362,564	414,883
賞与引当金繰入額	37,855	20,416
役員賞与引当金繰入額	9,220	15,405
退職給付費用	18,933	19,662
減価償却費	46,349	44,144

おおよその割合

販売費に属する費用	71.2%	67.8%
一般管理費に属する費用	28.8	32.2

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は608,412千円、前事業年度の貸借対照表計上額は627,794千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年7月31日)	当事業年度 (平成30年7月31日)
<流動の部>		
繰延税金資産		
未払事業税	2,467千円	2,474千円
貸倒引当金	6,230	20,371
賞与引当金	11,699	6,280
ポイント引当金	3,556	-
繰越欠損金	-	42,842
その他	4,075	8,022
繰延税金資産小計	28,029	79,992
評価性引当額	-	17,489
繰延税金資産合計	28,029	62,502
繰延税金資産の純額	28,029	62,502
<固定の部>		
繰延税金資産		
長期未払金	55,868千円	55,599千円
退職給付引当金	17,614	19,669
関係会社株式評価損	26,169	5,812
投資有価証券評価損	2,000	2,000
その他	463	118
繰延税金資産小計	102,116	83,201
評価性引当額	101,715	82,814
繰延税金資産合計	400	386
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	136	347
固定資産圧縮積立金	28,344	28,344
繰延税金負債合計	28,480	28,691
繰延税金資産の純額	-	-
繰延税金負債の純額	28,080	28,304

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年7月31日)	当事業年度 (平成30年7月31日)
法定実効税率	30.2%	30.2%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.5	2.0
評価性引当額の増減額	1.3	5.7
住民税均等割	0.1	0.2
法人税額の特別控除額	1.4	-
コラムジャパンの合併に伴う処理項目	-	29.6
その他	0.3	0.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.4	8.2

(企業結合等関係)

(連結子会社の吸収合併)

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しており
ます。

(重要な後発事象)

(取得による企業結合)

連結財務諸表「注記事項(重要な後発事象)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しており
ます。

(重要な子会社等の設立)

連結財務諸表「注記事項(重要な後発事象)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しており
ます。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	367,134	57,544	-	25,760	398,918	249,472
	構築物	13,383	-	-	1,737	11,645	36,931
	機械及び装置	14,739	-	0	2,950	11,789	47,050
	車両運搬具	1,381	-	-	459	921	4,348
	工具、器具及び備品	25,772	3,698	-	9,591	19,878	71,937
	土地	1,035,700	433,735	-	-	1,469,435	-
	建設仮勘定	-	4,100	-	-	4,100	-
	計	1,458,110	499,077	0	40,499	1,916,689	409,740
無形固定資産	ソフトウェア	49,071	5,556	329	17,294	37,004	-
	その他	7,445	18,475	6,367	260	19,293	-
	計	56,516	24,032	6,696	17,554	56,297	-

(注) 主な「当期増加額」のうち、「建物」及び「土地」については、収益不動産の取得に係る設備投資、「ソフトウェア」については、通信販売システムの改修に係る設備投資によるものであります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	20,624	67,859	20,624	67,859
賞与引当金	38,727	20,790	38,727	20,790
役員賞与引当金	9,220	15,405	9,220	15,405
ポイント引当金	11,772	-	11,772	-

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
基準日	7月31日
剰余金の配当の基準日	毎年7月31日 毎年1月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.tealifeir.com/
株主に対する特典	1. 株主優待制度の内容 7月末日現在の株主に対し、年1回「株主ご優待券」(当社商品お買上げ時利用)を次のとおり贈呈いたします。 2. 贈呈基準(保有株式数) 100株以上500株未満 1,000円分 500株以上1,000株未満 2,000円分 1,000株以上 3,000円分 3. 有効期間 発行より1年間

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1)有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第34期）（自 平成28年8月1日 至 平成29年7月31日）平成29年10月25日東海財務局長に提出。

(2)内部統制報告書及びその添付書類

平成29年10月25日東海財務局長に提出。

(3)四半期報告書及び確認書

（第35期第1四半期）（自 平成29年8月1日 至 平成29年10月31日）平成29年12月13日東海財務局長に提出。

（第35期第2四半期）（自 平成29年11月1日 至 平成30年1月31日）平成30年3月14日東海財務局長に提出。

（第35期第3四半期）（自 平成30年2月1日 至 平成30年4月30日）平成30年6月13日東海財務局長に提出。

(4)臨時報告書

平成29年10月26日東海財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項並びに企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年10月25日

ティーライフ株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 早稲田 宏 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 酒井 博 康 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているティーライフ株式会社の平成29年8月1日から平成30年7月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ティーライフ株式会社及び連結子会社の平成30年7月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ティーライフ株式会社の平成30年7月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、ティーライフ株式会社が平成30年7月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成30年10月25日

ティーライフ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 早稲田 宏 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 酒井 博 康 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているティーライフ株式会社の平成29年8月1日から平成30年7月31日までの第35期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ティーライフ株式会社の平成30年7月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。